

平成 21 年度

# 「大井川用水地区」

平成 21 年 7 月 27 日

農林水産省

(関東農政局) 大井川用水地区

事 業 名	国営かんがい排水事業	地 区 名	おおいがわようすい 大井川用水
都道府県名	静岡県	関 係 市 町	しまだし やいづし かけがわし ふじえだし ふくろいし 島田市、焼津市、掛川市、藤枝市、袋井市、 おまえさきし きくがわし まきのはらし はいばらぐん 御前崎市、菊川市、牧之原市、榛原郡 よしだちょう 吉田町
事 業 概 要	<p>本地区は、静岡県のほぼ中央に位置する大井川及び菊川などの扇状地として形成された沖積平野にあって、島田市他7市1町に跨る水田6,861ha、畑589haの計7,450haの地域であり、温暖な気候と良好な交通条件のもと、県内はもちろんのこと京浜及び中京方面に水稻やレタス、温室メロンなどの豊かな農産物を供給している農業地帯である。</p> <p>本地区の基幹水利施設は、昭和22年度から昭和43年度にかけて実施された国営大井川農業水利事業により整備されたが、事業完了後約40年が経過し、施設の老朽化による機能低下が生じている。</p> <p>また、営農形態の変化等による用水需要の変化、周辺地域の開発等による水田排水からの用水路への還元水の減少やため池の減少等による用水不足から、安定的な用水供給や適正な水配分が困難な状況になっている。さらに、平成13年度の東海地震想定震源域の公表をきっかけに地域住民の防災意識が高まり、防火用水としての活用等のため、土地改良区により地域用水環境整備計画が平成19年に取りまとめられた。</p> <p>このため、本事業及び関連事業による地区内の水利施設の再整備を行うことにより、農業用水の安定供給、合理的利用及び管理方法の改善、本地域の農業経営の安定化を図るとともに、本地区的農業用水が従来から有している地域用水機能（防火用水、景観）の維持及び増進を図るために、国営農業用水再編対策事業（地域用水機能増進型）として実施するものである。</p> <p>受 益 面 積 7,450ha (水田6,861ha、畑589ha)</p> <p>主要工事計画 取水工1箇所、頭首工2箇所、調整池5箇所、幹線用水路29.8km、末端用水路74.2km、水管理施設（中央局1箇所、支局1箇所）</p> <p>国営総事業費 56,500百万円（平成21年度時点 56,500百万円）</p> <p>関 連 事 業 費 県 営 6,348百万円 団体営 450百万円</p> <p>工 期 平成11年度～平成26年度(平成21年度)予定 ( )は一期工事</p>		
評 価	<p><b>【事業の進捗状況】</b></p> <p>本事業では、旧国営事業で造成した基幹水利施設の改修だけではなく、農業用水の安定供給と併せて、防火用水や景観といった地域用水機能の増進が見込まれる末端用水路の改修も行うものである。</p> <p>事業の実施に当たっては、老朽化が著しく早期に改修が必要であった重要施設を一期工事として、上水、工水及び発電との共同工事で実施する川口取水工から向谷幹線水路までの施設と小笠幹線水路大井川水路橋、栃山頭首工、榛原幹線水路大井川サイホンなどを平成11年度に着工し、平成20年度までの進捗率（事業費ベース）は99.5%となっている。</p> <p>残りの菊川頭首工、幹線水路、水管理施設などについては二期工事として平成13年度より着工しており、平成20年度までの進捗率（事業費ベース）は42.1%であり、一期及び二期を合わせた国営事業全体の進捗率（事業費ベース）は64.4%であり、平成26年度に事業完了することが見込まれている。</p> <p>地域用水機能増進に係る末端用水路の改修については、県営地域用水環境整備事業と連携して平成21年度以降に実施していく予定であり、関係団体で組織される地域用水対策協議会と調整を図りながら工事を進めていくこととしている。</p>		
項 目	<p><b>【関連事業の進捗状況】</b></p> <p>関連事業では、老朽化等により機能低下している末端水利施設の機能回復を図り、農業用水の安定供給及び適正な水配分に資するため、県営かんがい排水事業(12地区)及び県営畠地帯総合整備事業(3地区)並びに農山漁村活性化プロジェクト支援交付金事業(4地区)が位置付けられている。</p> <p>平成20年度末の進捗状況は、県営かんがい排水事業が12地区のうち完了1地区、実施中3地区で進捗率（事業費ベース）は18.7%、県営畠地帯総合整備事業が3地区のうち完了1地区、実施中1地区で進捗率（事業費ベース）は35.8%、農山漁村活性化プロジェクト支援交付金事業は4地区すべて未着手となっている。</p> <p>未着手の地区については、国営事業と連携して効果が十分に發揮するように、今後計画的に着手される予定である。</p> <p>なお、地域用水機能増進に係る末端用水路については、国営事業で行う改修に併せて防火用サクション、遊歩道等の整備を行う県営地域用水環境整備事業が計画されており、国営事業の進捗に合わせて計画的に着手される予定である。</p>		

評価	<p><b>【社会経済情勢の変化】</b></p> <p>本地域関係9市町では、平成17年までの10年間で総人口が4%増加するとともに、産業別就業人口でも第3次産業の占める割合が6%増加するなど、都市化の進展が見られる。</p> <p>地域農業の状況については、農家数、農業就業人口、耕地面積とも減少傾向にあるものの、専業農家数の占めるシェアは平成7年には13%であったものが平成17年では17%と増加している。3ha以上の経営を行っている農家数も増加傾向(H7:449戸→H17:765戸)にあり、経営体の育成及び経営規模の拡大が進んでいる。また、農地の効率的な利用等に資するため、農業生産法人(関係市町全体で35法人)の設立も行われている。</p> <p>水田では、コシヒカリを主体とした水稻栽培が行われているとともに、温暖な気候を利用した水田裏作が盛んであり、特に冬季におけるレタスやトマトは、良好な交通条件を活かして、県内のみならず東京、名古屋などの市場にも多く流通しており、水稻+野菜の複合経営が確立されている。</p> <p>また、畠地でも、静岡県が全国1位の温室メロンの県内生産量の25%を占める主产地となっているなど県内でも中心的な農業地帯である。</p> <p>本地域の平成17年の農業産出額は917億円で静岡県全体の36%を占めており、生産農業所得でも静岡県平均と比較して農家1戸当たりで122%と上まわるなど、都市化が進展している中にあっても、農業用水が地域の農業を支える重要な役割を果たしており、農業が地域の主要な産業として維持されている。さらに、地区内には多くの農産物直売所等(関係市町全体で72施設)が展開され、都市近郊としての特色を活かした地産地消が行われている。</p>						
項目	<p><b>【事業内容の重要な部分の変更の必要性の有無】</b></p> <p>本地区は、受益面積の変動及び主要工事計画の変更並びに地域用水機能増進に係る事業計画の変更を行ったところであり、現時点において受益面積、主要工事計画、事業費の変更はない。</p> <p><b>【費用対効果分析の基礎となる要因の変化】</b></p> <p>本地区は、農業効果の算定基礎となる地域農業振興の基本方針などの諸情勢の変化を踏まえた事業計画の変更を行ったところであり、現時点で費用対効果分析の基礎となる要因の変化は生じていない。</p> <p>費用対効果分析については、総費用総便益比方式により算定しており、以下のとおりである。</p> <table border="0"> <tr> <td>総便益額 (B)</td> <td>142,089 百万円</td> </tr> <tr> <td>総費用 (C)</td> <td>101,567 百万円</td> </tr> <tr> <td>総費用総便益比 (B/C)</td> <td>1.39</td> </tr> </table>	総便益額 (B)	142,089 百万円	総費用 (C)	101,567 百万円	総費用総便益比 (B/C)	1.39
総便益額 (B)	142,089 百万円						
総費用 (C)	101,567 百万円						
総費用総便益比 (B/C)	1.39						
項目	<p><b>【環境との調和への配慮】</b></p> <p>本地域の環境は、牧之原台地を隔てた西側と東側で大別される。</p> <p>西側の大井川右岸地域の特徴は、古くから水源確保のために多くのため池が造られ、里山～ため池～水田といった多様な環境を形成しており、農業用水が農業生産のみならず、地域住民に豊かな水辺環境を提供するとともに、多様な生態系の維持に貢献していることが挙げられる。</p> <p>東側の大井川左岸地域の特徴は、旧東海道の島田宿や川越遺跡などの歴史・文化が多く残る地域であり、農業用水が防火用水や景観といった地域用水機能を有するとともに、農業用水が注水される地区内河川の水質改善に貢献しているなど、従来から地域住民の暮らしに根付いたものとなっていることが挙げられる。</p> <p>事業の実施に当たっては、これら現状に配慮するとともに、関係市町が策定した田園環境整備マスターplanとの整合を図り、以下のような取組を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栃山頭首工 (東側) : 魚類等の移動経路を確保した魚道の設置</li> <li>・大胡桃調整池 (西側) : 調整池周辺の生態系に配慮した水辺と背後山地との連続性の確保</li> <li>・向谷幹線用水路 (東側) : 地元行政の周辺整備計画と調整し、歴史的文化景観の保全・調和に配慮した水路整備</li> </ul> <p>なお、栃山頭首工の魚道については、魚類等の遡上の確認作業を継続しており、大胡桃その他調整池については、今後も引き続きモニタリング調査を継続する予定である。</p>						

評 価 項 目	<p><b>【事業コスト縮減等の取組】</b></p> <p>本地区の事業計画策定に当たっては、水利施設の整備について、既設構造物を可能な限り生かし補修や補強などでコスト縮減を図り、さらに工事実施段階では以下のような事例の工事費縮減策を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トンネル改修工法の変更によるコスト縮減 赤松幹線水路伊太トンネルの更生工事において、従来は鋼管を内巻きしてモルタル充填等を行ってきたものを、近年に開発された高強度で韌性に富む「超高強度繊維補強コンクリートパネル工法」とすることでコストの縮減を図ったところ、従来工法と比べ、材料費（主に鋼管及び鋼管溶接費）が軽減された。</li> <li>・狭小区間における工法変更によるコスト縮減 志太榛幹線水路改修工事において、両側が家屋の狭小区間に大型水路を敷設するに当たり、従来から用いられてきたシールド工法から近年普及しつつあった沈埋工法に工法変更することでコストの縮減を図った。</li> </ul>
	<p><b>【関係団体の意向】</b></p> <p>関係団体（静岡県、関係市町、関係土地改良区）は、老朽化により機能低下が生じている基幹水利施設及び末端用水路について、関係機関との調整を十分に行った上でコスト縮減に努めつつ整備することを求めている。また、農業経営の低コスト化と施設管理の省力化を実現させるとともに、古くから地域住民の生活に密着した地域用水機能を維持・増進させるため、本事業の早期完成を要望している。</p>
	<p><b>【評価項目のまとめ】</b></p> <p>本地区の基幹水利施設は、昭和22年度から昭和43年度にかけて実施された国営大井川農業水利事業により整備され、大井川からの安定的な用水供給が可能となり、現在では県内のみならず、京浜及び中京方面への農産物供給基地としての重要な役割を担っている。また、地区内では、多くの農産物直売所等の展開を通じて、都市近郊の特色を活かした地産地消が行われている。</p> <p>しかしながら、本地区的水利施設は、老朽化による機能低下が生じているとともに、営農形態の変化等による用水需要の変化や用水不足等の課題も生じており、本事業により水利施設の再整備を行い、用水の安定供給、農業経営の安定化を図ることは、今後の本地区農業の更なる発展において極めて意義が大きい。</p> <p>さらに、本地区的農業用水には、防火用水や景観といった地域用水機能についての活用のニーズが高まり、今般、地域用水機能増進等に係る計画変更を行ったところであり、今後はより一層、地域用水としての更なる役割を發揮することが期待され、関係団体も本事業の早期完成を要望している。</p> <p>事業の進捗状況は、早期に改修が必要な重要施設については、平成21年度に完了する見込みであり、今後は、残された基幹水利施設の整備を着実に実施するとともに、地域用水機能の維持・増進に係る末端用水路を県営事業と連携して整備する方針である。</p> <p>今後とも、関係機関との連携を図りながら、事業コストの縮減、環境との調和への配慮に留意しつつ、早期完成に向けて事業を推進する必要がある。</p>
<b>【第三者委員会の意見】</b>	
<b>【事業の実施方針案】</b>	

おおいがわようすい  
**国営かんがい排水事業「大井川用水」地区**

**再評価説明資料**



**関東農政局**

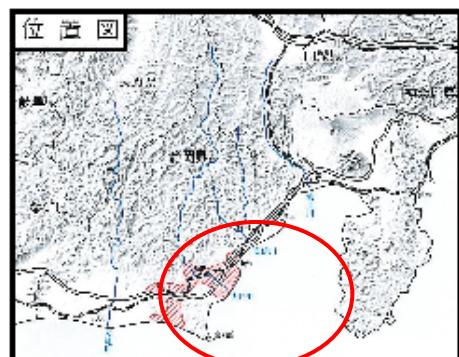
**農林水産省**

## 1. 地区概要

大井川用水地区は、静岡県のほぼ中央に位置する大井川により形成された扇状地と瀬戸川沿岸並びに牧之原台地を隔てた菊川及び原野谷川の沿岸等に広がる沖積平野にあって、島田市他7市1町に跨る7,450ha(水田6,861ha、畑589ha)の農業地帯である。

本地区は、温暖な気象条件と良好な交通条件のもと、地区内の大部分を占める水田地帯においては、水稻を中心としてレタスやトマトなどの野菜類を組み合わせた営農が行われ、遠州灘に面した畠地帯においては温室メロンやいちご、かんしょなどの野菜類を中心とした営農が行われており、県内はもちろんのこと京浜及び中京方面へも農産物を供給している。

【大井川用水地区の位置図】



## 2. 事業概要

### (1) 事業概要

本地区は、昭和 22 年度から昭和 43 年度にかけて実施された国営大井川農業水利事業とこれに附帯する県営事業等により、基幹水利施設の整備が行われたが、事業完了後約 30 年以上を経過し、主要な施設は築後 30~50 年を経過しているため、当該施設の老朽化による機能低下が生じていた。

また、営農形態の変化等による用水需要の変化並びに周辺地域の開発等による水田排水からの河川への還元水の減少、ため池の減少等による用水不足などから、安定的な用水供給や適正な水配分が困難な状況になっていた。

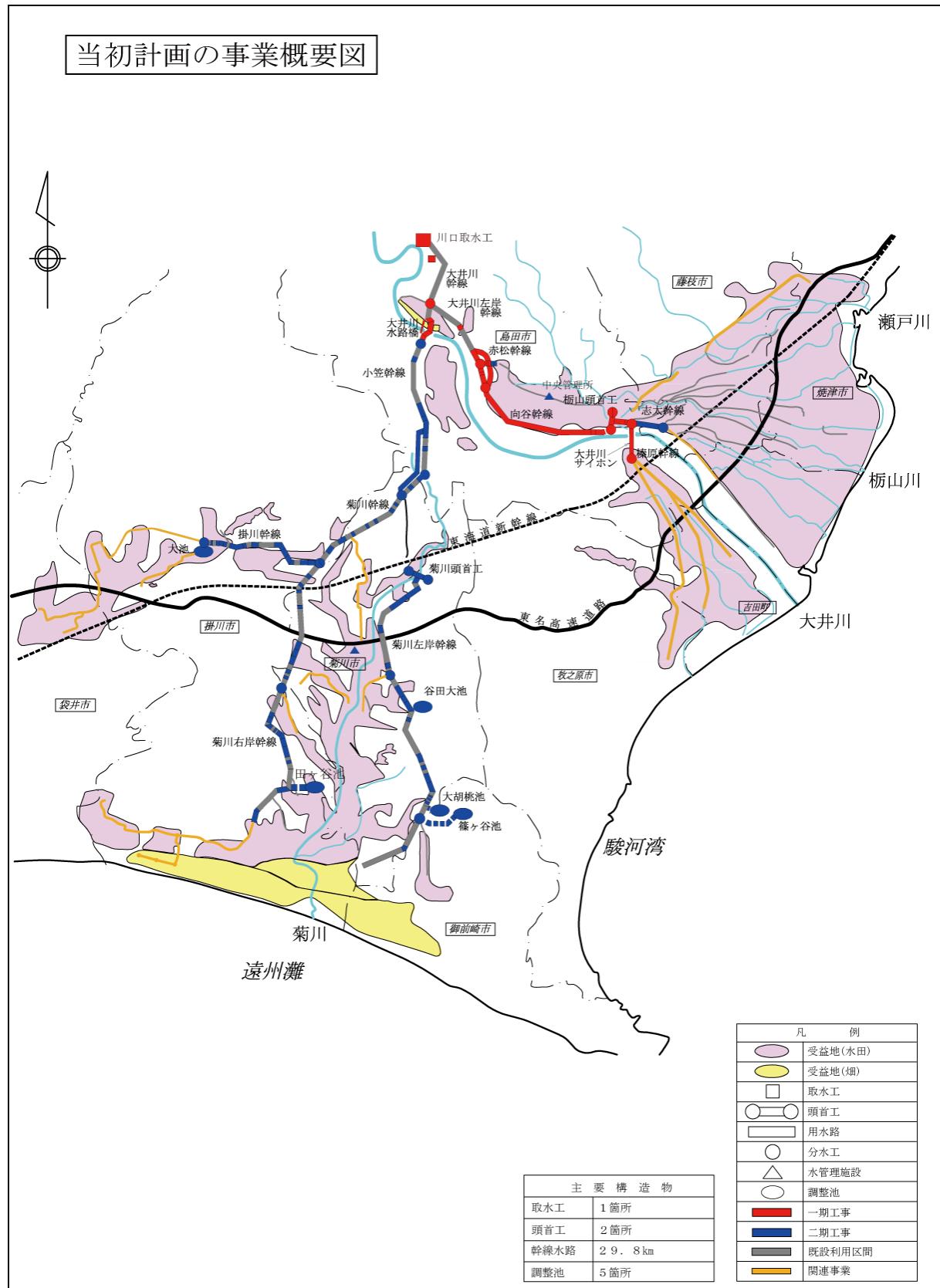
このため、地区内の水利施設の再整備を行うことにより、農業用水の合理的利用、管理方法の改善を図り、本地域の農業経営の近代化と安定を目指すことを目的として、国営かんがい排水事業により地区内の基幹水利施設の改修を行うこととした。

事業の実施に当たっては、老朽化が著しく早期に改修が必要であった重要施設を一期工事として、上水、工水及び発電との共同工事で実施する川口取水工から向谷幹線水路までの施設と小笠幹線水路大井川水路橋、栃山頭首工、榛原幹線水路大井川サイホンなどを平成 11 年度に着工し、その他の幹線水路、菊川頭首工、水管理施設については二期工事として平成 13 年度より着工している。

#### 【当初計画】

- ・ 受益面積 7,757ha(水田 7,150ha, 畦 607ha)
- ・ 主要工事計画 取水工 1箇所、頭首工 2箇所、調整池 5箇所、幹線用水路 29.8km、水管理施設(中央局 1箇所、支局 1箇所)
- ・ 国営総事業費 40,000 百万円(平成 10 年度単価)
- ・ 一期工事 平成 11 年度から平成 20 年度まで  
(対象施設) 川口取水工、栃山頭首工、大井川幹線水路、大井川左岸幹線水路、赤松幹線水路、向谷幹線水路、志太榛幹線水路、小笠幹線水路(大井川水路橋)
- ・ 二期工事 平成 13 年度から平成 20 年度まで  
(対象施設) 菊川頭首工、大池、田ヶ谷池、谷田大池、大胡桃池、篠ヶ谷池、菊川幹線水路、菊川右岸幹線水路、菊川左岸幹線水路、掛川幹線水路、小笠幹線水路、志太幹線水路、榛原幹線水路、水管理施設

当初計画の事業概要図



## (2) 国営農業用水再編対策事業（地域用水機能増進型）への移行

本地区の農業用水はかんがい用水としての機能だけでなく、従来から防火用水や景観などの地域用水機能を有しており、地元からは基幹水利施設と一体となった末端用水路までの改修が要望されていた。

このため、平成11年度の事業着手より関係団体からなる地域用水対策協議会が組織され、地域用水機能の増進を目的とした末端用水路の整備計画の検討や地元体制の確立が進められていた。

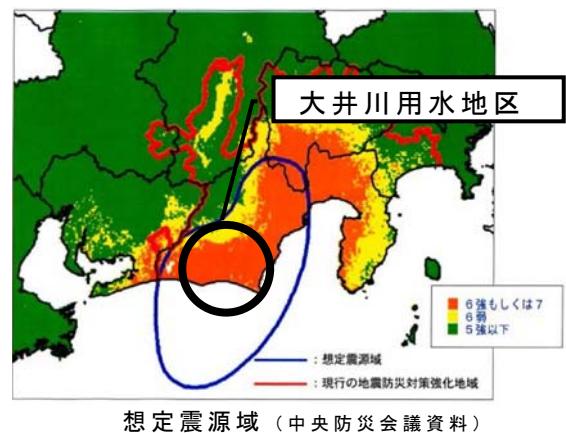
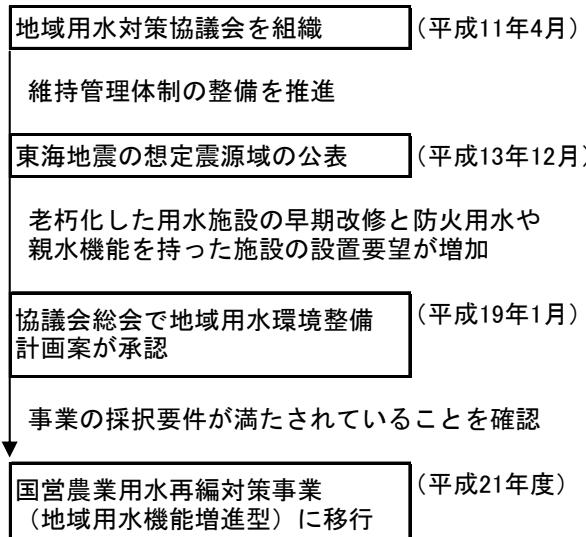
平成13年度の東海地震想定震源域の公表をきっかけに地域住民の防災意識が高まり、防火用水等としての活用等のため、土地改良区により地域用水環境整備計画が平成19年に取りまとめられたことから、本事業を国営農業用水再編対策事業（地域用水機能増進型）に移行し、基幹水利施設の改修と併せて末端用水路の改修を行うこととした。

地域用水機能増進型への移行と併せて、事業着手以降における地域開発の進展等により受益面積の変動や、幹線水路等の工法変更などが生じていたことから事業計画の見直しを行い、平成21年度に変更事業計画を確定した。



住宅地を流れる用水路

### 【地域用水機能増進型の取組経緯】



## 【現計画】

- ・受益面積 7,450ha(水田 6,861ha, 畑 589ha)
- ・主要工事計画 取水工 1箇所、頭首工 2箇所、調整池 5箇所、幹線用水路 29.8km、末端用水路 74.2km(地域用水)、水管理施設(中央局 1箇所、支局 1箇所)
- ・国営総事業費 56,500 百万円(平成 18 年度単価)
- ・一期工事 平成 11 年度から平成 21 年度まで  
(対象施設) 川口取水工、栃山頭首工、大井川幹線水路、大井川左岸幹線水路、赤松幹線水路、向谷幹線水路、志太榛幹線水路、小笠幹線水路(大井川水路橋)
- ・二期工事 平成 13 年度から平成 26 年度まで  
(対象施設) 菊川頭首工、大池、七曲池、谷田大池、大胡桃池、篠ヶ谷池、菊川幹線水路、菊川右岸幹線水路、菊川左岸幹線水路、掛川幹線水路、小笠幹線水路、赤松幹線水路、志太幹線水路、榛原幹線水路、末端用水路、水管理施設

## 【大井川水路橋】



## 【栃山頭首工】



### (3) 国営農業用水再編対策事業(地域用水機能増進型)の概要

#### ア 地域用水機能の現状

本地域では、江戸時代以前より開墾が進められ、地区内の農業用水は從来から地域の貴重な生活用水(洗濯や農作物の洗浄等)として利用してきた。

昭和 22 年度から 43 年度にかけて実施された国営大井川農業水利事業等により基幹水利施設と農地の整備が行われ、地域の農業生産が安定する一方で、高度経済成長期以降は地域の都市化が進み、宅地の拡大に伴い防火用水及び地域住民の貴重な景観環境として、大井川用水の果たす役割が大きくなっている。



(大井川用水を利用した消火事例)



(支線用水路沿いの桜並木)

現在では、地域農業を支える重要なかんがい用水であるだけではなく、火災時の消火用水源として利用されているほか、用水路やため池の管理用道路が地域住民の散策や通学路として利用されており、身近な水辺環境として地域住民の生活に溶け込んでいるとともに、地域の景観保全に寄与している。



(地域住民の生活に溶け込んだ水路)



(通学路として利用される管理用道路)

また、各市町においては、地域住民が用水路の清掃や草刈りなどを行う活動が毎年行われており、大井川用水とその水利施設は地域住民みんなの手で守られている。

さらに、近年は地域住民の防災に対する意識が高まり、老朽化した用水施設の早期改修と防火用水や景観の機能を持った施設の設置要望が増えてきている。

#### イ 地域用水機能の増進

本地区の農業用水が有する防火用水、景観といった地域用水機能については、土地改良区が主体となる大井川用水地域用水対策協議会を中心となって、地域用水機能の評価を詳細に行い、平成19年1月に地域用水環境整備計画が策定されている。

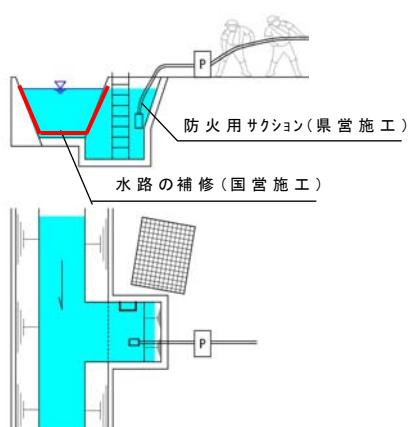
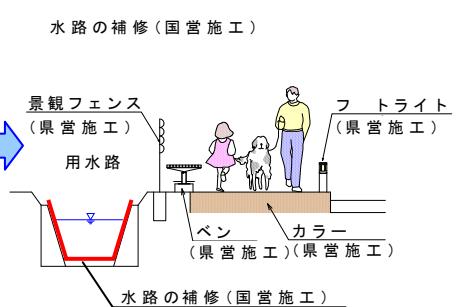
防火用水機能にあっては、国による末端用水路の改修と併せて、県による防火用水機能の増進を図る。具体的には、消防法の基準による消火栓の未整備箇所について、防火用水機能の増進を図るために防火用サクション（取水口）等の設置と、消防活動等の車両回転スペースを確保するための改修を行うものである。

景観機能にあっては、国による末端用水路の改修と併せて、県による景観機能の増進を図る。具体的には、地域住民が安全で快適に水利施設に接することのできる遊歩道やフェンス、休憩施設の整備を行うこととしている。

## 【高度化する機能ごとの考え方】

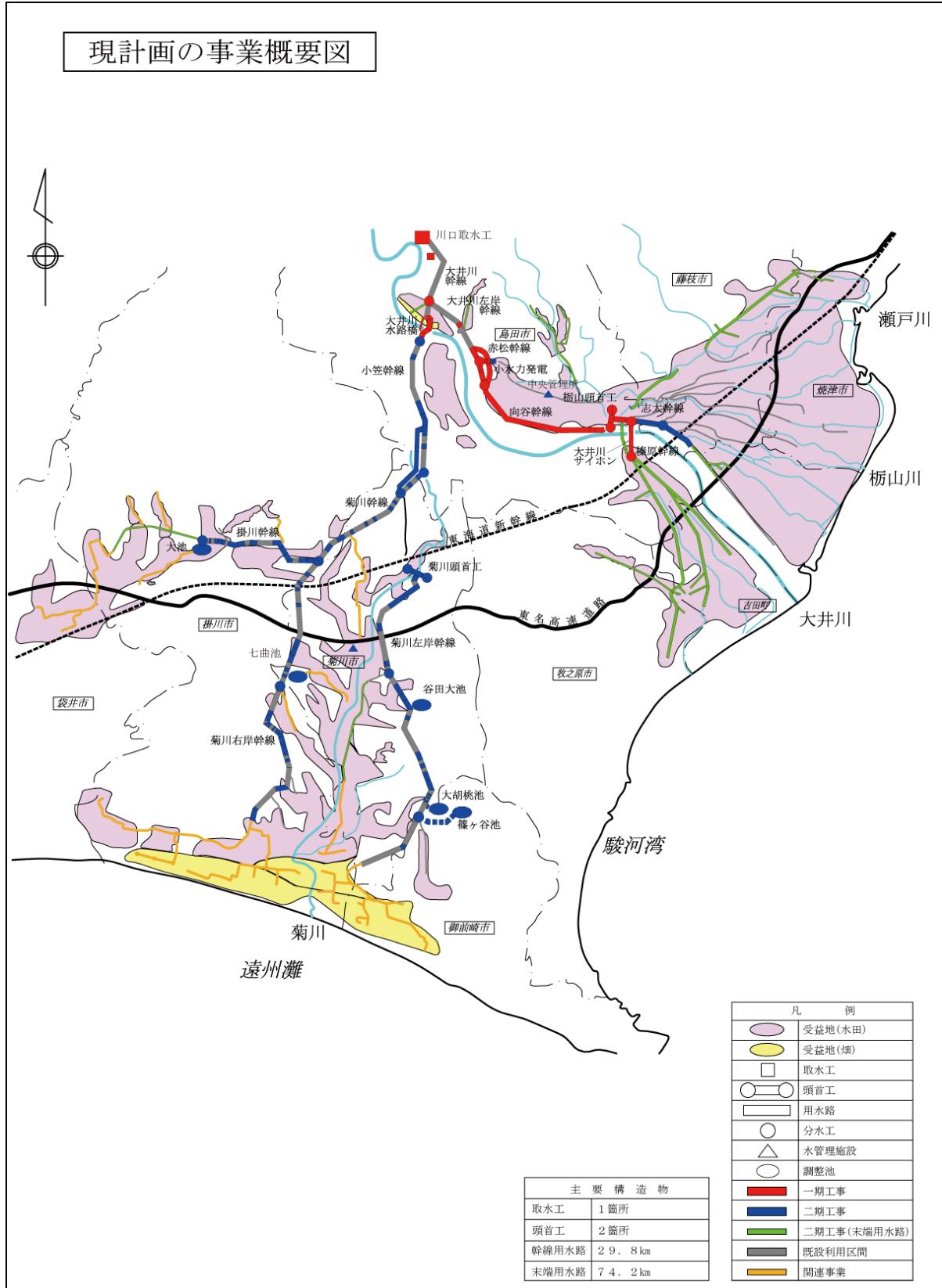
機能	基本方針及び整備内容	用水の使い方
防火用水機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>地元住民の要望等を基本に防火機能の維持・増進を図り、初期消火用水を確保する。</li> <li>開水路では水路内に防火用サクション等を設置し、パイプラインでは分水工に付帯して防火用水を設置する。</li> <li>水路ごとに消火栓整備状況を整理し、未整備地点105箇所に防火用サクション等を設置する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>通常時は農業用水の需要に対応した適な用水管理を行い、火災等の時は一時的に下流への用水供給を止など必要な措置をとる。</li> </ul>
景観機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>内の水路の景観機能を維持・増進することを目的に整備を行う。</li> <li>整備は農業用水路の管理用道路を利用し、地域住民が用水路に接することのできるカラーの遊歩道や景観に配慮したフェンスの設置を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>用水路、調整池へ通水されることにより景観機能が維持・増進される。</li> </ul>

## 【増進イメージ】

	整備前	整備後
防火用水機能		
景観機能		

防火用サクションとは、消火用水が確保できる施設です。

現計画の事業概要図



### 3. 事業の進捗状況

平成 20 年度末までの国営事業全体の進捗状況は、事業費ベースで 64.4% となっている。

事業の実施に当たっては、老朽化が著しく早期に改修が必要であった重要施設を一期工事として、上水、工水及び発電との共同工事で実施する川口取水工から向谷幹線水路までの施設と小笠幹線水路大井川水路橋、栃山頭首工、榛原幹線水路大井川サイホンなどを平成 11 年度に着工し、平成 20 年度までの進捗率（事業費ベース）は 99.5% である。

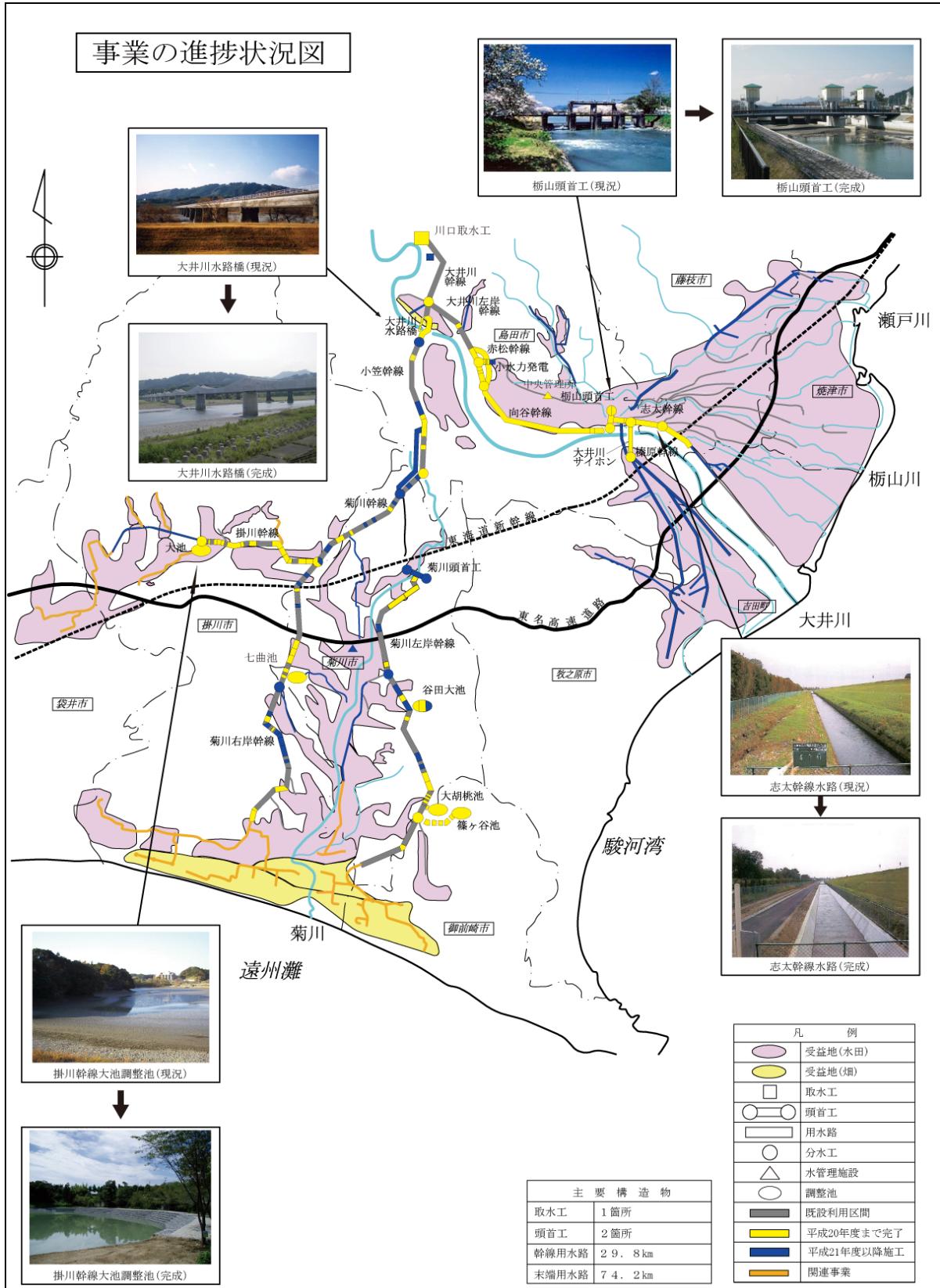
残りの菊川頭首工、小笠幹線水路、掛川幹線水路、菊川左岸幹線水路、菊川右岸幹線水路、水管理施設などについては二期工事として平成 13 年度より着工しており、平成 20 年度までの進捗率（事業費ベース）は 42.1% であり、平成 26 年度に事業完了することが見込まれている。

地域用水機能増進に係る末端用水路については、県営地域用水環境整備事業と連携して平成 21 年度以降に実施していく予定であり、関係団体で組織される地域用水対策協議会と調整を図りながら工事を進めていく予定である。主要な施設の工期は以下のとおりである。

工事施工	事業量	全体実施設計										再評価		計画変更		再評価		
		H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
1)取水工																		
川口取水工	1箇所									↔					↔			
2)頭首工																		
栃山頭首工	1箇所									↔↔								
菊川頭首工	1箇所														↔			
3)用水路																		
大井川幹線水路	1式						↔				↔↔							
大井川左岸幹線水路	0.3 km								↔									
赤松幹線水路	1.5 km						↔↔↔											
向谷幹線水路	7.3 km			↔↔↔↔↔↔↔														
志太榛幹線水路	0.8 km								↔↔									
志太幹線水路	2.2 km						↔↔				↔↔							
榛原幹線水路	1.0 km								↔↔↔									
小笠幹線水路	4.3 km			↔↔↔↔↔↔↔														
菊川幹線水路	1.9 km						↔↔↔											
菊川右岸幹線水路	3.8 km						↔↔↔											
菊川左岸幹線水路	3.2 km								↔↔↔									
掛川幹線水路	3.5 km						↔↔↔↔											
末端用水路	74.2 km														↔↔↔↔			
4)調整池	5箇所																	
大池	1箇所								↔↔									
七曲池	1箇所									↔↔								
谷田大池	1箇所										↔							
大胡桃池	1箇所									↔↔								
篠ヶ谷池	1箇所									↔↔								
5)水管理施設	1式														↔↔↔↔			

赤字 :一期工事 青字 :二期工事 紫字 :一期工事、二期工事に係るもの

## 事業の進捗状況図



#### 4. 関連事業の進捗状況

関連事業では、老朽化等により機能低下している末端水利施設の機能回復を図り、農業用水の安定供給及び適正な水配分に資するため、県営かんがい排水事業(12 地区)及び県営畠地帯総合整備事業(3 地区)並びに農山漁村活性化プロジェクト支援交付金事業(4 地区)が位置付けられている。

平成 20 年度末の進捗状況は、県営かんがい排水事業が 12 地区のうち完了 1 地区、実施中 3 地区で進捗率(事業費ベース)は 18.7%、県営畠地帯総合整備事業が 3 地区のうち完了 1 地区、実施中 1 地区で進捗率(事業費ベース)は 35.8%、農山漁村活性化プロジェクト支援交付金事業は 4 地区すべて未着手となっている。

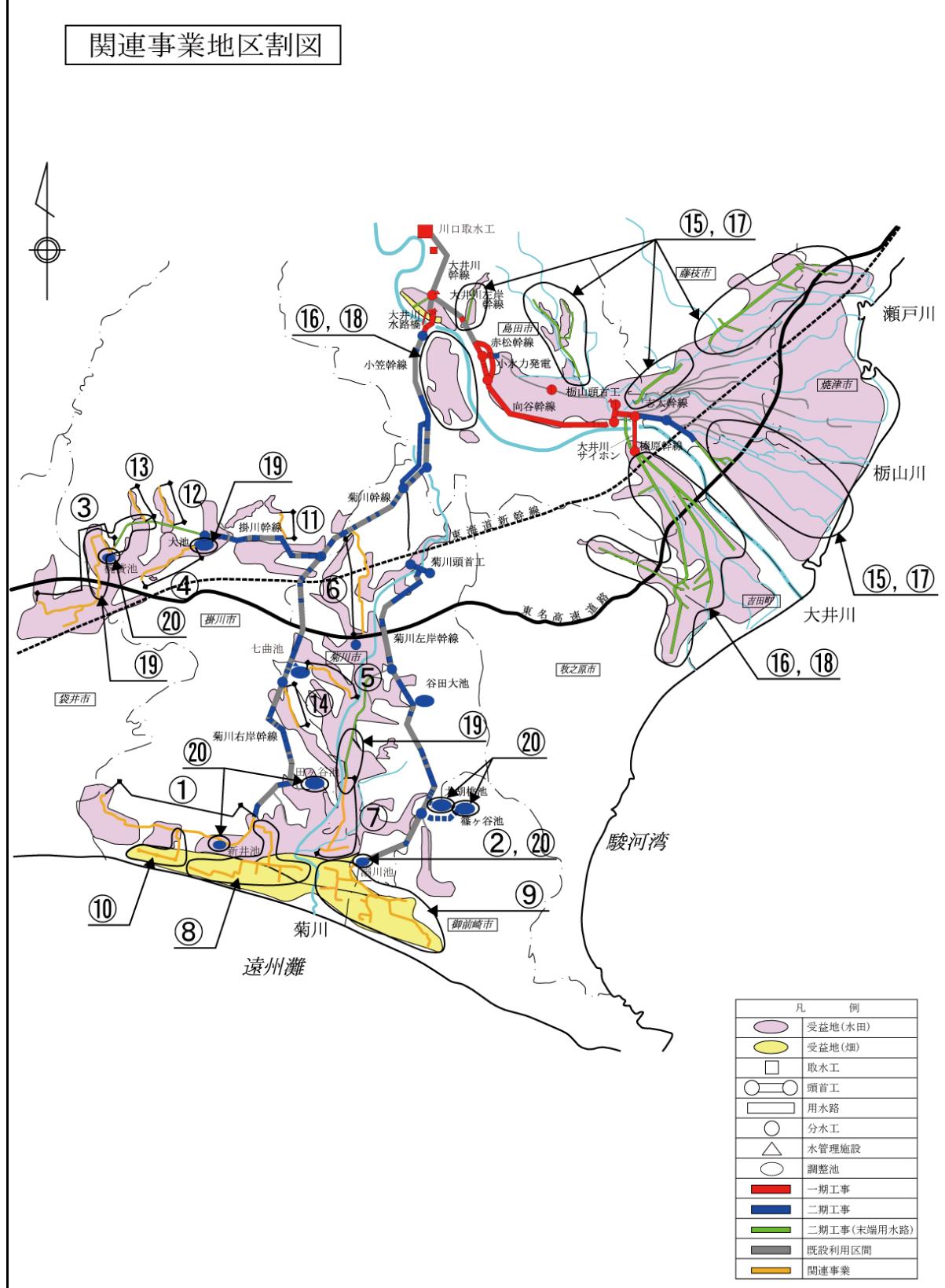
未着手の地区については、国営事業と連携して効果が十分に発揮するよう、今後計画的に着手される予定である。

なお、地域用水機能増進に係る末端用水路については、国営事業で行う改修に併せて防火用サクション、遊歩道等の整備を行う県営地域用水環境整備事業が計画されており、国営事業の進捗に合わせて計画的に着手される予定である。

## 関連事業の進捗状況

番号	予定地区名	総事業費 (百万円)	受益面積 (ha)	予定期	H20年度まで (百万円)	進捗率 (%)
<b>県営かんがい排水事業</b>						
県営かんがい排水事業(一般)						
①	菊川右岸幹線	200	385	H25～H28	0	0.0%
県営かんがい排水事業(農業水利施設緊急更新整備事業)						
②	溺川池	50	384	H15～H19	50	100.0%
県営かんがい排水事業(県営基幹水利施設ストックマネジメント事業)						
①	横須賀(菊川右岸幹線)	165	(307)	H18～H22	79	47.9%
③	掛川幹線(掛川幹線)	105	393	H22～H26	0	0.0%
③	袋井用水(掛川幹線下流)	142	(220)	H24～H26	0	0.0%
③	国本用水(掛川幹線下流)	162	(100)	H24～H26	0	0.0%
④	曾我用水	140	(104)	H25～H28	0	0.0%
⑤	内田用水	663	150	H25～H28	0	0.0%
①	菊川右岸幹線	447	(335)	H22～H26	0	0.0%
⑥	加茂用水	763	110	H24～H26	0	0.0%
	小計	2,587	653		79	3.1%
県営かんがい排水事業(県営新農業水利システム保全整備事業)						
⑦	菊川左岸(平田用水)	504	239	H18～H22	225	44.6%
③	掛川幹線(掛川幹線)	687	(336)	H18～H22	401	58.4%
	小計	1,191	239		626	52.6%
	県営かん排 計	4,028	1,661		755	18.7%
<b>県営畠地帯総合整備事業</b>						
⑧	大浜	838	178	H10～H19	778	100.0%
⑨	千浜	835	85	H11～H21	740	88.6%
⑩	野中用水	647	100	H22～H26	0	0.0%
	畠総 計	2,320	363		1,518	65.4%
	県営事業 計	6,348			2,273	35.8%
農山漁村活性化プロジェクト支援交付金事業(団体営かんがい排水事業)						
⑪	初馬	90	31	H24～H26	0	0.0%
⑫	上垂木	160	34	H24～H26	0	0.0%
⑬	遊家	100	12	H24～H26	0	0.0%
⑭	佐束用水	100	59	H25～H28	0	0.0%
	団体営事業 計	450	136		0	0.0%
	合計	6,798	2,160		2,273	33.4%
<b>県営地域用水環境整備事業(単独地域防災施設整備)</b>						
⑮	志太	268		H20～H24	17	6.3%
⑯	吉田榛原	249		H21～H25	0	0.0%
<b>県営地域用水環境整備事業(地域用水環境整備型)</b>						
⑰	大井川左岸	140		H25～H28	0	0.0%
⑱	大井川右岸	160		H26～H29	0	0.0%
⑲	大井川右岸一期	110		H23～H25	0	0.0%
⑳	大井川右岸二期	210		H25～H27	0	0.0%
	県営地域用水事業計	1,137			17	1.5%

関連事業地区割図



## 5. 社会経済情勢の変化

本地区においては、平成 17 年までの 10 年間で総人口が 4% 増加するとともに、産業別就業人口でも第 3 次産業の占める割合が 6% 増加するなど、都市化の進展が見られる。

地域農業の状況については、農家数、農業就業人口、耕地面積とも減少傾向にあるものの、専業農家数や 3ha 以上の経営を行っている農家数は増加傾向にあり、経営体の育成及び経営規模の拡大が進んでいる。また、農地の効率的な利用等に資するため、農業生産法人の設立も行われている。

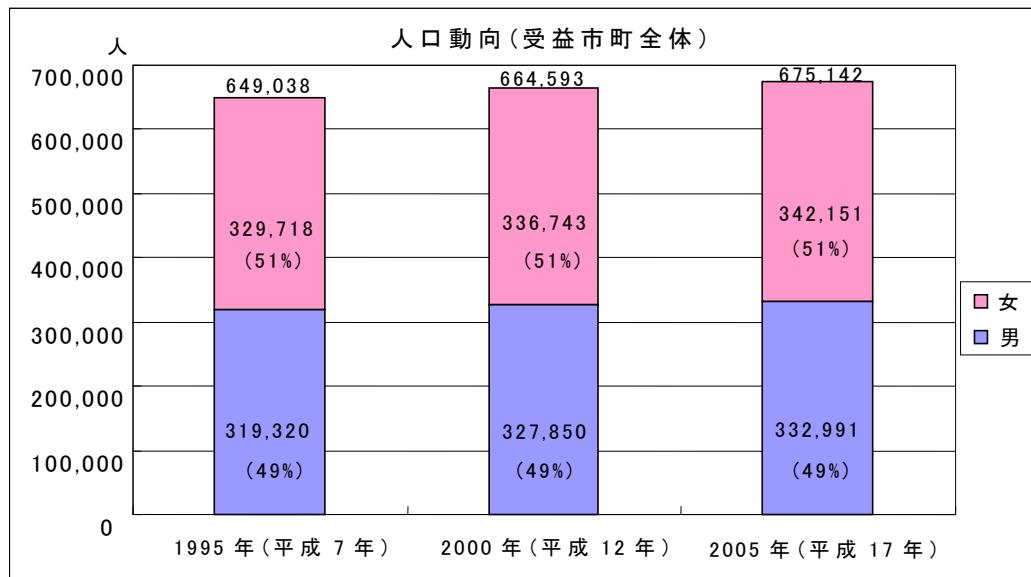
水田では、コシヒカリを主体とした水稻栽培が行われているとともに、温暖な気候を利用した水田裏作が盛んであり、特に冬季におけるレタスやトマトは、良好な交通条件を活かして、県内のみならず東京、名古屋などの市場にも多く流通しており、水稻 + 野菜の複合経営が確立されている。

また、畠地でも、温室メロンやいちご、かんしょなどの県内の主産地となっており、県内でも中心的な農業地帯である。

農業産出額でも県全体の 36% を占めており、生産農業所得でも県平均を上まわっているなど、都市化が進展している中にあっても、農業用水が地域の農業を支える重要な役割を果たしており、また農業が地域の主要な産業として維持されている。さらに、地区内では、多くの農産物直売所等が展開され、都市近郊としての特色を活かした地産地消が行われている。

### (1) 人口の推移

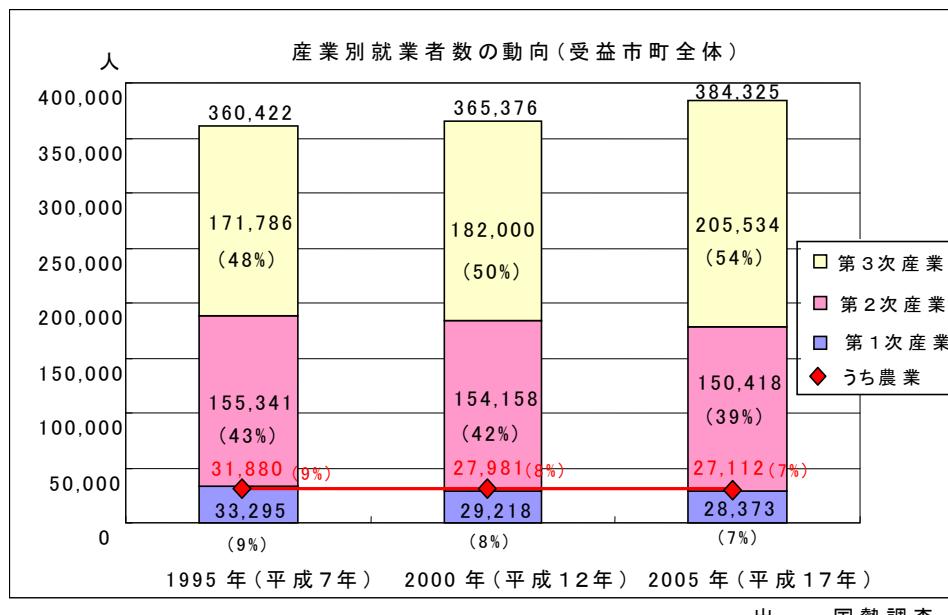
本地域の総人口は平成 7 年に 649,038 人であったが、平成 17 年には 675,142 人に増加しており 10 年間で 4% 増加している。各年における別割合に変化はない。



## (2) 産業別人口

産業別就業人口は第3次産業が全体の約数を占め、平成7年に48%であったのに対し、平成17年では54%と年々増加傾向にある。

農業就業人口は平成7年の31,880人から平成17年の27,112人と減少しているものの、直近5か年の減少はその前の5か年と比較すると大幅に少なくなっている（H7→H12：3,899人、H12→H17：869人）。

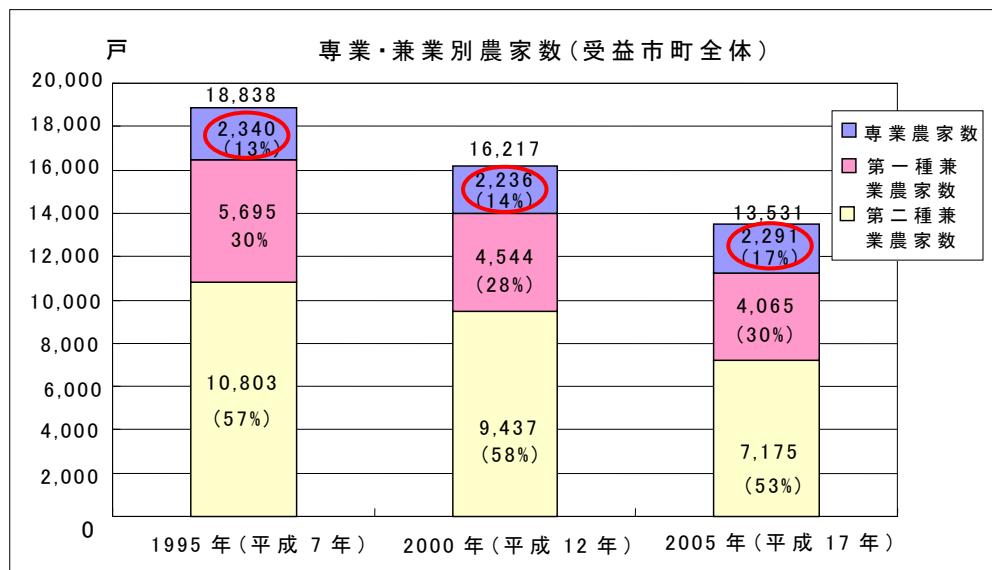


出：国勢調査

## (3) 専業兼業別農家数の推移

関係8市1町の農家戸数は、平成7年に18,838戸であったものが平成17年には13,531戸と減少傾向にある。

ただし、専業農家数は平成7年に13%であったものが平成17年には17%とその割合は増加しており、また、第一種兼業農家も横ばいで推移している。

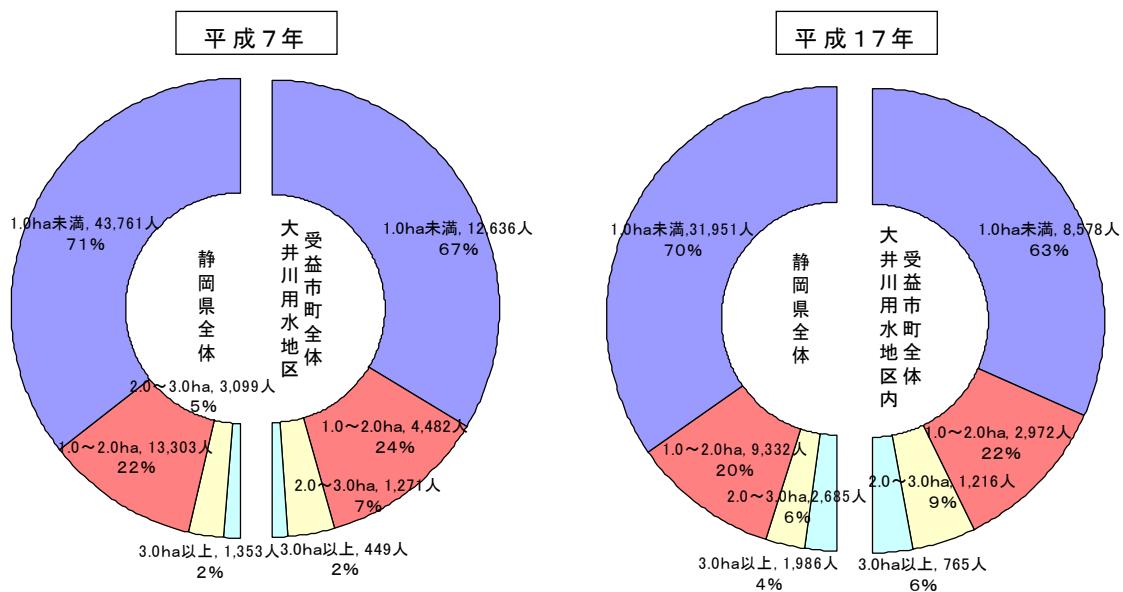


#### (4) 経営耕地面積規模別農家数

平成 17 年の経営耕地面積規模別農家数は、1.0ha 以下が 63% と大部分を占め、1.0～2.0ha が 22%、2.0～3.0ha が 9% となっている。

経年変化では 2.0ha 以下の戸数は年々減少傾向にあるものの、2.0ha～3.0ha ではほぼ横ばいで推移しており、3.0ha 以上の経営を行っている農家数は増加傾向 (H7:449 戸→H17:765 戸) にあり、当該規模の経営を行う農家の割合は、県内のそれよりも大きく、経営体の育成及び経営規模の拡大が進んでいる。また、農地の効率的な利用等に資するため、農業生産法人の設立も行われている。

経営耕地面積規模別農家数（受益市町全体）



出：農林業センサス

## 農業生産法人の展開状況

農地の効率的な利用等に資するため、農業生産法人の設立が行われており、関係市町における法人数は以下のとおり。

市町名	法人数	市町名	法人数
島田市	2	御前崎市	
焼津市	2	菊川市	
掛川市	8	牧之原市	2
藤枝市	5	吉田町	
袋井市	4	合 計	5

出展：静岡県 設部農地局農地利用室からの き取り

農業生産法人とは、農地法で規定する農業の共同経営体としてふさわしい4つの要件（組織、事業、構成員、経営者要件）を備えている法人の び名であり、農業経営を行うために農地等に係る 利(所有、等)を取得することができる農業法人である。

## 農事組合法人の事例

### 1. 「グリーンファーマーズ藤枝」(静岡県藤枝市大洲)

#### 概要

##### ①設立

本事業により農業用水の安定供給が可能となることを契機に平成17年2月に設立

##### ②規模

- 構成員 19名
- 経営面積 30.0ha

##### ③取組

- 高齢化や混住化が進む地域の水田を集積
- 大型機械導入により水稻作業受託を拡大
- 小麦、大豆などの転作作物の作付拡大
- 水田裏作として秋冬作レタス栽培や一等米の「おおす米」を地元JA直売所へ出荷
- 地域の子供たちへの食農教育を実践

##### ④導入作物

水稻、小麦、大豆、レタス等



おおす米の直売所

### 2. 「大東農産」(静岡県掛川市(旧大東町))

#### 概要

##### ①設立

農業人口の高齢化に伴い、地域における水稻経営のあり方研究会で検討の結果、平成9年に農業法人化を決定

##### ②規模

- 構成員 7名
- 経営面積 148ha

##### ③取組

- 作業機械の集約により作業体系を効率化
- 米のトレーサビリティを徹底
- 菜種油を加工したバイオディーゼル燃料(4t/年)を製造
- 米の地産地消を推進
- 地元の子供達を対象に稻作教室を開催

##### ④導入作物

水稻、小麦、牧草、菜種

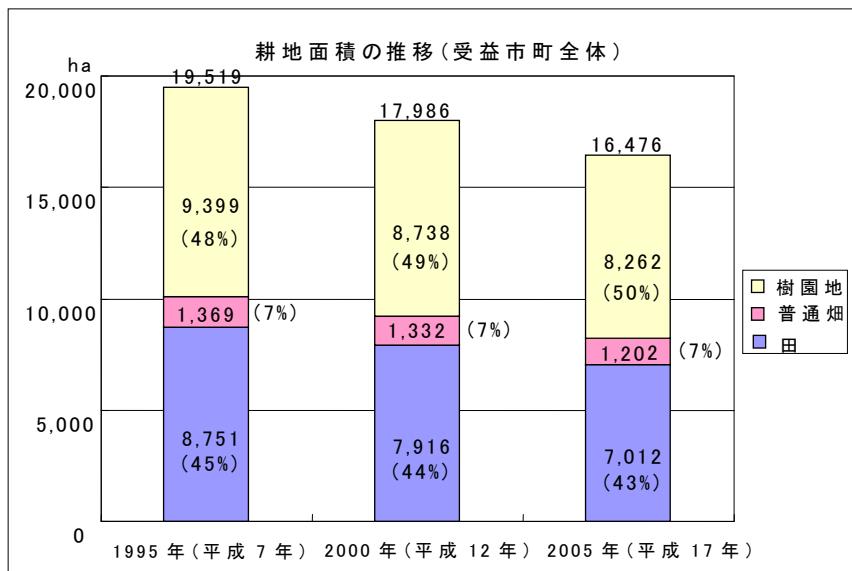


田植え教室の開催

## (5) 耕地面積の推移

耕地面積は平成 17 年で 16,476ha、地目別では水田 43%、普通畑 7%、樹園地 50%と水田と樹園地が全体の 9 割以上を占めている。

平成 7 年に対し平成 17 年は全体で 16% 減少しており、水田が 20% の減少、畑及び樹園地が 12% 度減少している。



出：農林業センサス

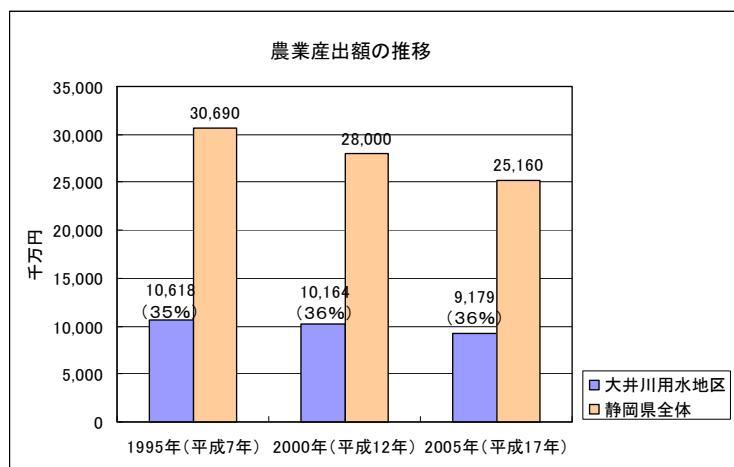
## (6) 農業産出額の推移

本地域の農業産出額は、平成7年に対し平成12年は4%減、平成17年は10%の減となっているが、県全体の推移と同傾向にある。

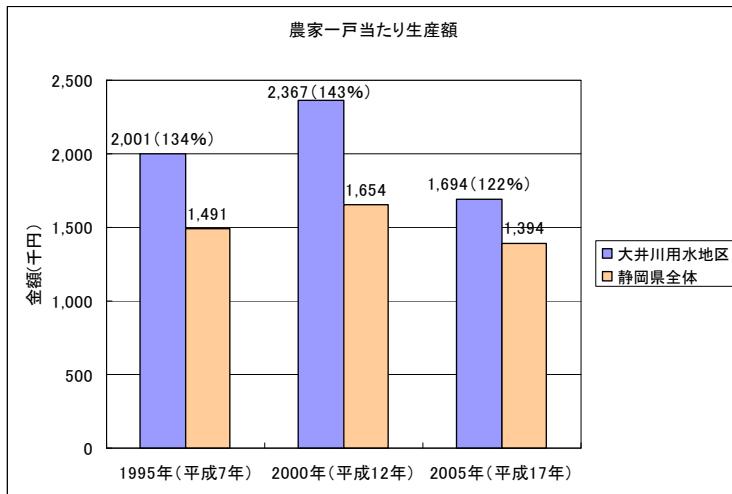
また、農家一戸当たり生産額についても静岡県平均と比較して平成7年で134%、平成12年で143%、平成17年で122%と、いずれも静岡県全体を上まわっている。

水田では、コシヒカリを主体とした水稻栽培のほか、裏作として冬季に栽培されているレタスは、温暖な気候と水田湛水による連作の回により安定した産地となっており、東京大田市場の平成17~18年の1、2月の産地別取扱い実績で静岡県産が27%のシェアでトップである。

また、畠地でも、静岡県が全国1位の生産量を有する温室メロンでは県内生産量の約25%のシェアを占めており、高品質なメロンとしてブランドが確立されている。



出典：静岡県農林水産統計年報



出典：静岡県農林水産統計年報

## 農業の特色

レタス	温室 メロン
<p>水田裏作作物として昭和 30 年代から栽培が定着した。水稻+レタスの複合経営により湛水による連作障害を回避し、安定した産地を維持している。</p> <p>作付面積は、平成 14 年の 535ha から平成 17 年の 533ha とほぼ横ばいで推移し、平成 17 年における県全体に占める割合は 65%である。</p> 	<p>遠州灘に面した畠地帯では大井川用水の整備に伴い温室メロンの栽培が定着した。</p> <p>ガラス温室での栽培は、冬季でも温暖で日照時間も長く、肥沃な土地と水に恵まれているという農業的優位条件を活かし年間を通して盛んに栽培されている。一株に一個の栽培方法を用いるなど、厳格な栽培管理により高品質なメロンを安定的に生産出荷している。</p> 

## 農産物直売所の展開状況

地区内では多くの農産物直売所等が展開され、都市近郊としての特色を活かした地産地消が行われており、関係市町における施設数は以下のとおりである。

市町名	施設数	市町名	施設数
島田市	1	御前崎市	
焼津市	12	菊川市	1
掛川市	1	牧之原市	
藤枝市	1	吉田町	1
袋井市	1	合 計	72

出展：関係市町からの 喊取り  
なお、お 、 類を専 に う は除外した。

## 6. 事業計画の重要な部分の変更の必要性の有無

本地区は、受益面積の変動及び主要工事計画の変更並びに地域用水機能増進に係る事業計画の変更を行ったところであり、現時点において受益面積、主要工事計画、事業費の変更はない。

## 7. 費用対効果分析の基礎となる要因の変化

本地区は、農業効果の算定基礎となる地域農業振興の基本方針などの諸情勢の変化を踏まえた事業計画の変更を行ったところであり、現時点で費用対効果分析の基礎となる要因の変化は生じていない。

## 8. 費用対効果分析の結果

費用対効果分析については、総費用総便益比方式により算定しており、以下のとおりである。

### (1) 地区の概要

ア 地 域	:	島田市、藤枝市、焼津市、掛川市、菊川市、御前崎市、牧之原市、袋井市、榛原郡吉田町
イ 受益面積	:	7,450 ha
主要工事計画	:	取水工1箇所、頭首工2箇所、調整池5箇所、幹線用水路29.8km、末端用水路74.2km、水管理施設（中央局1箇所、支局1箇所）
工 総事業費	:	65,758 百万円
うち国営事業費	:	56,546 百万円
関連事業費	:	9,212 百万円
工 期	:	平成11年度～平成26年度

### (2) 総費用総便益比の算定結果

効果算定を行った結果、総費用総便益比が1.0以上になったことを確認した。

ア 総費用（現在価化、割引率4%）	:	101,567 百万円	① ② ③
うち当該事業による費用	:	56,546 百万円	②
うちその他費用	:	45,021 百万円	③
(関連事業費、資産価額、再整備費)			
イ 評価期間	:	56年（当該事業の工期40年）	
総便益額（現在価化、割引率4%）	:	142,089 百万円	
工 総費用総便益比	:	1.39	①

(3) 年総効果額の算定結果

(単位：百万円)

効果項目	年総効果額	効果の要因
作物生産効果	5,405	用水施設の整備を実施した場合と実施しなかった場合での農作物生産量が増減する効果
営農経費 減効果	244	用水施設の整備を実施した場合と実施しなかった場合での営農経費が増減する効果
維持管理 減効果	385	用水施設の整備を実施した場合と実施しなかった場合での施設の維持管理費が増減する効果
地域用水効果	1	用水施設の整備を実施した場合と実施しなかった場合での地域の防火施設の設置費用が 減される効果
景観・環境保全効果	159	用水施設の整備に当たり、周辺の景観や親水性、環境との調和に配慮した設計・構造を合わせ持った施設として整備することにより、地域用水の親水機能が維持・増進される効果
計	4,936	

## 9. 環境との調和への配慮

本地域は、牧之原台地を隔てた西側と東側で大別される。

西側の大井川右岸地域の特徴は、古くから多くのため池が造られ、里山～ため池～水田といった多様な環境を形成しており、農業用水が農業生産のみならず、地域住民に豊かな水辺環境を提供するとともに、多様な生態系の維持に貢献していることが挙げられる。

東側の大井川左岸地域の特徴は、旧東海道の島田宿や川越遺跡などの歴史・文化が多く残る地域であり、農業用水が防火用水や景観といった地域用水機能を有するとともに、地区内河川の水質改善に貢献しているなど、従来から地域住民のくらしに根付いたものとなっていることが挙げられる。

事業の実施に当たっては、これら現状に配慮するとともに、関係市町が策定した田園環境整備マスターplanとの整合を図り、以下のような取組を行っている。

- ①栃山頭首工（東側）：魚類等の移動経路を確保した魚道の設置
- ②大胡桃調整池（西側）：調整池周辺の生態系に配慮した水辺と背後山地の連続性の確保
- ③向谷幹線用水路（東側）：地元行政の周辺整備計画と調整し、歴史的文化景観の保全・調和に配慮した水路整備

なお、栃山頭首工の魚道については、魚類等の遡上の確認作業を継続しており、大胡桃その他調整池については、今後も引き続きモニタリング調査を継続する予定である。

### ①頭首工に関する取組事例



- 市街地に位置し、住居区域に接しており人の往来が多く、大谷津川沿線にある桜並木が地域住民の憩いの場となっている。
- ◇ 魚道新設による魚類への配慮
- ◇「桜を守る会」と調整しながら桜の伐採、幼木の植栽等を行い、工事完了後は地域と一体となって桜による景観保全を維持

## ②調整池に関する取組事例

○生物の生息環境保全に努めるため、大胡桃調整池の水辺と背後山地との連続性を確保した。

【整備前】

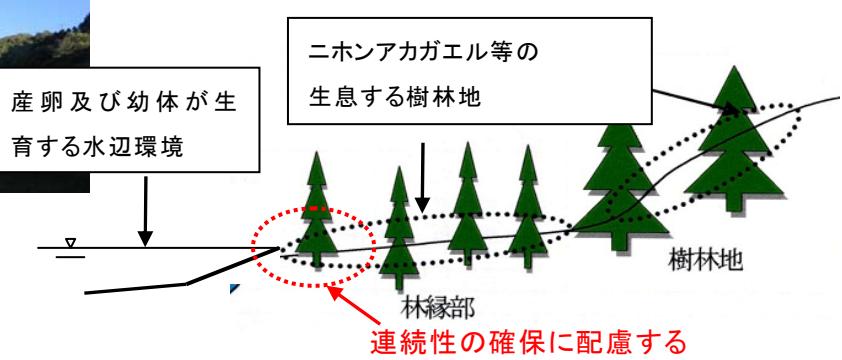


【整備後】

ため池の湛水状況と背後地の状況を確認しながら、

①湿地帯の創設

②横断排水溝により移動経路を確保



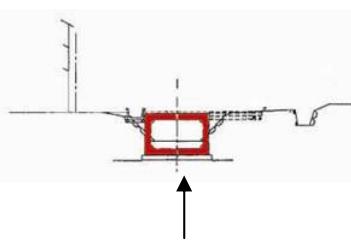
## ③用水路に関する取組事例

○向谷幹線用水路では、歴史文化景観等を保全するため、周辺景観との調和に配慮した水路整備計画とした。

【整備前】



【整備後】



幹線水路を暗きよ化



◇「河原町周辺整備計画」を計画した島田市と調整した結果、車及び人が行き交うスペースが必要なこと、また、現況水路は景観と合わないことから、幹線水路を暗きよ化し、支線水路のみ開水路に決定

◇支線水路は石張りでせせらぎ風に島田市が施工

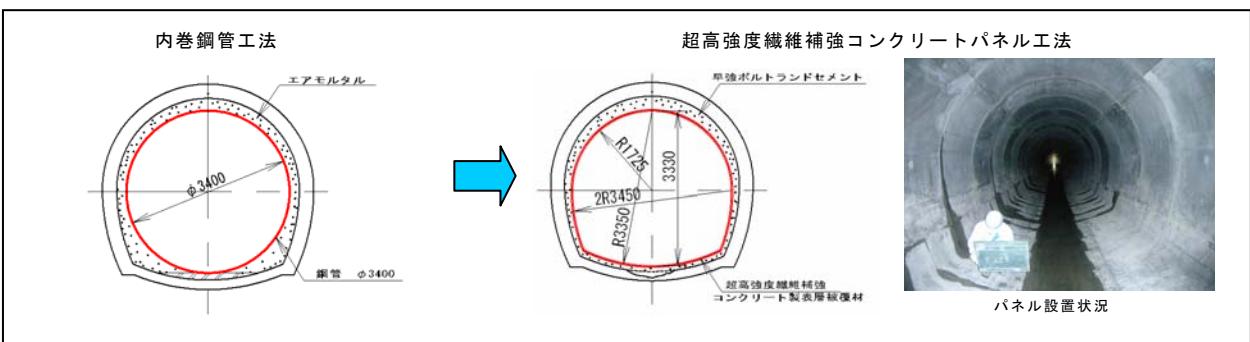
## 10. 事業コスト縮減等の取組

本地区の事業計画策定に当たっては、水利施設の整備について、既設構造物を可能な限り生かし、補修や補強することでコスト縮減を図り、さらに工事実施段階では以下のような事例の工事費縮減策を行っている。

### ①トンネル改修工法の変更によるコスト縮減

赤松幹線水路伊太トンネルの更生工事において、従来は鋼管を内巻きしてモルタル充填等を施工してきたものを、近年に開発された高強度で韌性に富む「超高強度繊維補強コンクリートパネル工法」とすることでコストの縮減を図ったところ、従来工法と比べ、材料費（主に鋼管及び鋼管溶接費）が軽減された。

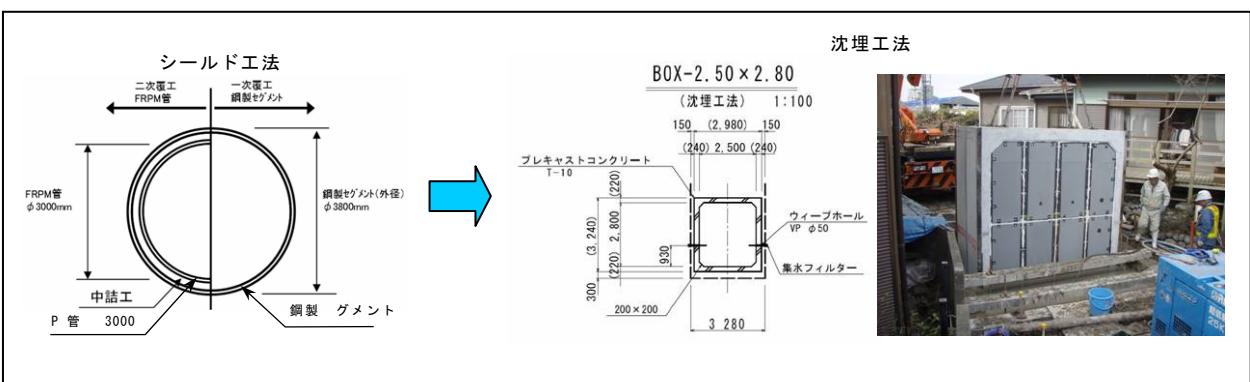
○従来工法



### ②狭小区間における工法の変更によるコスト縮減

志太榛幹線水路改修工事において、両側が家屋の狭小区間に大型水路を敷設するに当たり、従来から用いられてきたシールド工法から近年普及しつつあった沈埋工法に工法を変更することでコストの縮減を図った。

○従来工法



# 費用対効果分析の結果

—国営かんがい排水事業 「大井川用水地区」 —

## 1. 地区の概要

- (1) 受益面積：7,450ha
- (2) 事業目的：用水改良
- (3) 主要工事計画：頭首工1箇所、調整池5箇所、用水路改修29.8km、末端用水路74.2km、水管理施設1式
- (4) 総事業費：56,500百万円
- (5) 工期：平成11年度～平成26年度

## 2. 総費用総便益比の算定

(1) 総費用総便益比の総括 (単位：百万円)

区分	算定式	数值
総費用（現在価値化）	①=②+③	101,567
該事業による整備費用	②	56,546
その他費用（関連事業費+資産価額+再整備費）	③	45,021
評価期間（当該事業の工事期間+40年）	④	56年
総便益額（現在価値化）	⑤	142,089
総費用総便益比	⑥=⑤÷①	1.39

(2) 年総効果額の総括 (単位：百万円)

区分 効果項目	年総効果額	効果の要因
作物生産効果	5,405	用水施設の整備を実施した場合としなかった場合での農作物生産量が増減する効果
営農経費節減効果	-244	用水施設の整備を実施した場合としなかった場合での営農経費が増減する効果
維持管理費節減効果	-385	用水施設の整備を実施した場合としなかった場合での施設の維持管理費が増減する効果
地域用水効果	1	用水施設の整備を実施した場合としなかった場合での地域の防火施設の設置費用が節減される効果
景観・環境保全効果	159	用水施設の整備に当たり、周辺の景観や親水性、環境との調和に配慮した設計・構造を合わせ持った施設として整備することにより、地域用水の親水機能が維持・増進される効果
計	4,936	

(算定式)

$\text{総便益額} = \Sigma B_t / (1 + \text{割引率}) t$ $\text{総費用} = \Sigma C_t / (1 + \text{割引率}) t$ $+ (\text{事業着工時点でのすべての関連施設の資産価額})$ $- (\text{評価終了時点でのすべての関連施設の資産価額})$
--

B<sub>t</sub> : 年度別効果額

C<sub>t</sub> : 年度別事業費 t : 基準年を0とした経過年数

※資産価額については、評価実施年度に現在価値化する。

**農林水産省**

# 再評価説明参考資料

国営かんがい排水事業 大井川用水地区

関東農政局

農林水産省

## 目 次

1. 事業の進捗状況 .....	1
(1) 国営事業 .....	1
(2) 関連事業 .....	1
2. 受益面積の変動 .....	2
3. 主要工事の変動 .....	2
4. 総事業費の変動 .....	3
5. 事業コスト縮減に向けた取組 .....	3
6. 費用対効果分析の結果 .....	4
7. 環境との調和に対する取組 .....	5
8. 事業工期 .....	5
9. 農業情勢等調書 .....	6
10. 事業概要図 .....	42

## 1. 事業の進捗状況

### (1)国営事業

総 事 業 費(百万円)		
総事業費	H20まで	進捗率(%)
56,500	36,405	64.4

### (2)関連事業

事業種別	地 区 数	総 事 業 費 (百万円)	H20まで (百万円)	進 捗 率 (%)	備 考
県営かんがい排水事業(一般)	1 地区	200	0	0.0	
県営かんがい排水事業 (農業水利施設緊急更新整備事業)	1 地区	50	50	100.0	
県営かんがい排水事業 (県営基幹水利施設ストックマネジメント事業)	8 地区	2,590	79	3.1	
県営かんがい排水事業 (県営新農業水利システム保全整備事業)	2 地区	1,205	626	52.0	
県営畠地帯総合整備事業	3 地区	2,260	1,518	67.2	
農山漁村活性化プロジェクト 支援交付金事業 (団体営かんがい排水事業)	4 地区	450	0	0.0	
計	19 地区	6,755	2,273	33.6	

注1:予定地区の総事業費は見込み

注2:総事業費及びH20までは当該事業の全体事業費

## 2. 受益面積の変動

### (1) 計画の対比

(単位:ha)

区分	変更計画	増減	増減率(%)	備考
田	6,861	6,861	—	
畠	589	589	—	
計	7,450	7,450	—	

## 3. 主要工事の変動

区分	施設名	変更計画	増減	増減率(%)	増減理由
取水工	川口取水工	1箇所	—	—	—
頭首工	栃山頭首工	1箇所	—	—	—
	菊川頭首工	1箇所	—	—	—
幹線用水路	大井川幹線水路	0.0 km	—	—	—
	大井川左岸幹線水路	0.3 km	—	—	—
	赤松幹線水路	1.5 km	—	—	—
	向谷幹線水路	7.3 km	—	—	—
	志太榛幹線水路	0.8 km	—	—	—
	志太幹線水路	2.2 km	—	—	—
	榛原幹線水路	1.0 km	—	—	—
	小笠幹線水路	4.3 km	—	—	—
	菊川幹線水路	1.9 km	—	—	—
	菊川右岸幹線水路	3.8 km	—	—	—
	菊川左岸幹線水路	3.2 km	—	—	—
	掛川幹線水路	3.5 km	—	—	—
	小計	29.8 km	—	—	—
末端用水路	瀬戸川導水幹線水路他26路線	74.2 km	—	—	—
水管理施設	親局(中央局)	1箇所	—	—	—
	支局(右岸支局)	1箇所	—	—	—
	子局	34箇所	—	—	—
	孫局	6箇所	—	—	—

#### 4. 総事業費の変動

##### (1)計画の対比

(単位:百万円)

変更計画	増減額	備考
56,500	一	

##### (2)増減の内訳 該当無し

項目	増減額	増減率(%)	増減理由
自然増			
事業量変更			
工法変更			
小計			
合計			

#### 5. 事業コスト縮減に向けた取組(平成12年度～平成20年度)

年 度	全体工事費(A)(百万円)	縮減額(B)(百万円)	縮減率(B/(A+B))	主な内容
平成12年度	199	24	10.8%	水路の基礎材を碎石より安価な再生碎石とした。
平成13年度	1,001	113	10.1%	水路の基礎材を碎石より安価な再生碎石とした。
平成14年度	1,521	322	17.5%	水路橋の橋脚に高強度のコンクリート及び鉄筋を使用して橋脚の規模を小さくした。
平成15年度	2,660	300	10.1%	調整池の掘削において、底泥の固化材処理を行い、護岸補強及び仮設道路の路体に利用した。
平成16年度	778	21	2.6%	ほ場整備の盛土高を調整により低くしたことにより、現場打ちのコンクリート暗渠をコンクリート二次製品とした。
平成17年度	3,858	554	12.6%	頭首工建設における仮締切を、鋼矢板を使用した二重締切から鋼製型枠を組み合せて土嚢を詰め込む方法に変更した。
平成18年度	2,428	603	19.9%	調整池連絡水路工事において、浮力をコンクリートで抑えることで埋設深を浅くする浅埋設工法を採用した。
平成19年度	4,471	854	16.0%	管水路工事においてトンネルを高強度で韌性に富む資材を使用した。
平成20年度	3,647	431	10.6%	開水路をパイプライン化することにより、末端用水路の維持管理費を軽減した。
計	20,563	3,222	13.5%	

今後とも、幹線用水路及び末端用水路工事による工法の検討、再生資源の活用等によりコスト縮減及び工事期間の短縮を図る。

## 6. 費用対効果分析の結果

### (1)総事業費

65, 758百万円

うち 国営事業費  
関連事業費

56, 546百万円  
9, 212百万円

### (2)総費用総便益額の算定

#### ① 年総効果額

(平成20年度:百万円)

効果項目	年総効果額	効果の要因
食料の安定供給の確保 に 関 す る 効 果	4, 776	事業ありせば・なかりせばにおける作物生産効果、営農経費節減効果 維持管理節減効果の増減
農村の振興に関する効果	1	事業ありせば・なかりせばにおける地域用水効果の増減
多目的機能の發揮 に 関 す る 効 果	159	事業ありせば・なかりせばにおける景観・環境保全効果の増減
計	4, 792	

#### ② 総費用・総便益額 (評価期間56年、割引率4%)

総費用 = 101, 567百万円 (当該事業費56, 546+その他費用45, 021)

総便益額 = 142, 089百万円

### (3)総費用総便益比の算定

$$\begin{aligned} \text{総費用総便益比} &= \frac{\text{総便益額}}{\text{総費用}} = \frac{142, 089\text{百万円}}{101, 567\text{百万円}} \\ &= 1.39 \geq 1.00 \end{aligned}$$

## 7. 環境との調和への配慮に対する取組

### (1) 環境配慮の取組内容

本地域の環境は、牧之原台地を隔てた西側と東側で大別される。

西側の大井川右岸地域の特徴は、古くから多くのため池が造られ、里山～ため池～水田といった多様な環境を形成しており、農業用水が農業生産のみならず、地域住民に豊かな水辺環境を提供するとともに、多様な生態系の維持に貢献していることが挙げられる。

東側の大井川左岸地域の特徴は、旧東海道の島田宿や川越遺跡などの歴史・文化が多く残る地域であり、農業用水が防火用水や親水といった地域用水機能を有するとともに、地区内河川の水質改善に貢献しているなど、從来から地域住民の暮らしに根付いたものとなっていることが挙げられる。

事業の実施に当たっては、これら現状に配慮した取組を行うこととしており、主な事例としては①頭首工、②調整池、③用水路である。

#### ①頭首工に関する取組事例

○栃山頭首工は市街地に位置し、住居区域に接しており人の往来が多く、大谷津川沿線にある桜並木が地域住民の憩いの場となっている。

◇魚道新設による魚類への配慮

◇「桜を守る会」と調整しながら桜の伐採、幼木の植栽等を行い、工事完了後は地域と一体となって桜による景観保全を維持

#### ②調整池に関する取組事例

○生物の生息環境保全に努めるため、大胡桃調整池の水辺と背後山地の連続性を確保した。

◇ため池の湛水状況と背後地の状況を確認しながら、①湿地帯の創設、②横断排水溝により移動経路を確保

#### ③用水路に関する取組事例

○向谷幹線用水路では、歴史文化景観等を保全するため、周辺景観との調和に配慮した水路整備計画とした。

◇「河原町周辺整備計画」を計画した島田市と調整した結果、車及び人が行き交うスペースが必要なこと、また、現況水路は景観と合わないことから、幹線水路を暗きよ化し、支線水路のみ開水路に決定

◇支線水路は石張りでせせらぎ風に島田市が施工

## 8. 事業工期

	変更計画
着工	平成 11 年
完了	平成 26 年

平成20年度 国営土地改良事業再評価

「かんがい排水事業地区」

基 硍 資 料

(9. 農業情勢等調書)

関東農政局

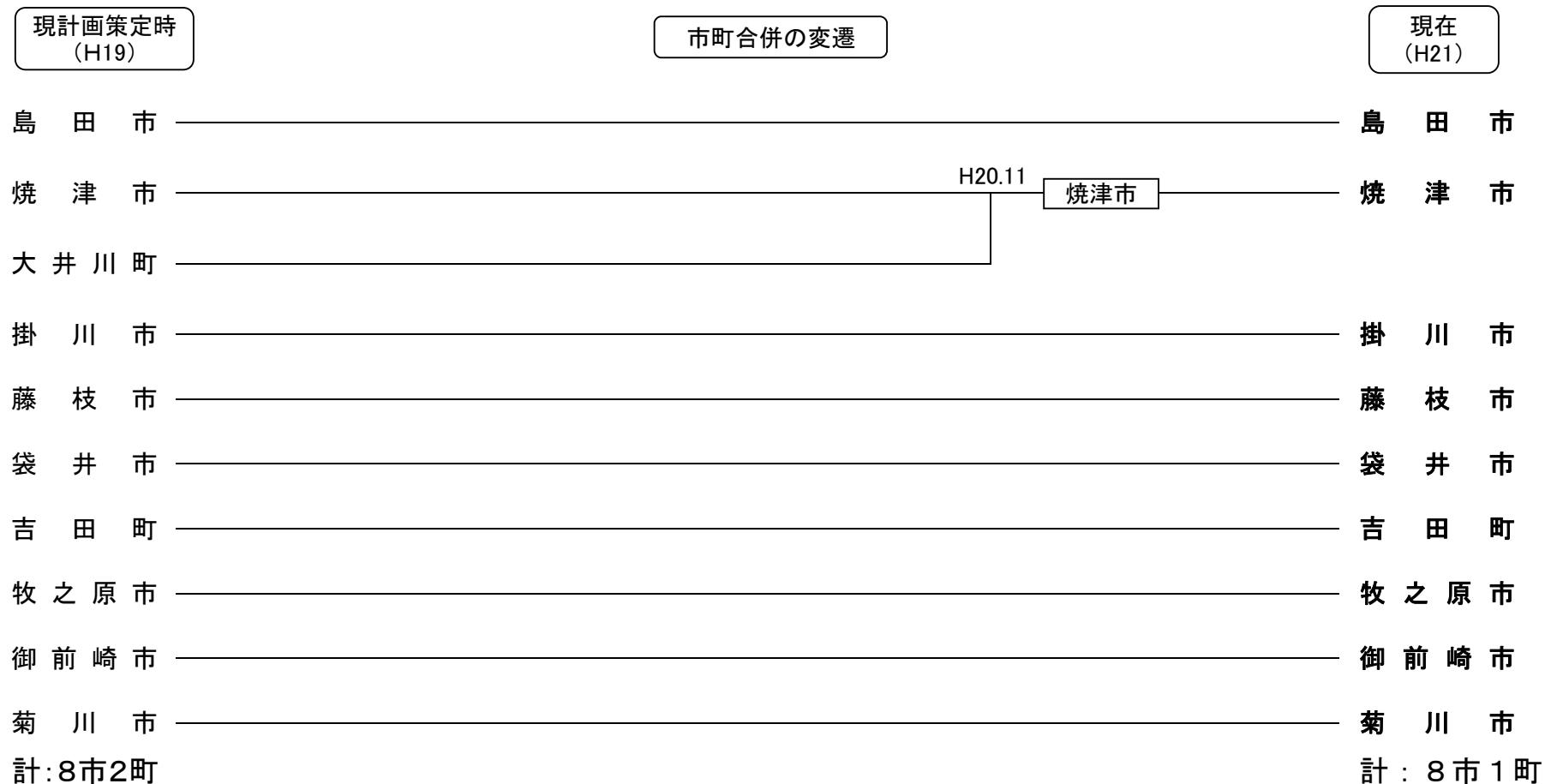
## 目 次

1. 社会経済情勢の変化 .....	8
(1) 関係する市町村の合併促進状況 .....	8
(2) 産業別就業人口の動向 .....	9
(3) 地域経済の動向 .....	10
(4) 農業の動向 .....	11
(5) 経営耕地面積規模別農家数及び専兼業別農家数 .....	12
2. 費用対効果分析の基礎となる要因の変化 .....	13
(1) 営農計画 .....	13
(2) 農業振興計画等の見直し状況(県、関係市町村) .....	14
(3) 農産物等の動向 .....	36
(ア) 作付面積 .....	36
(イ) 農産物価格等 .....	38
(ウ) 単位当たり収量 .....	40

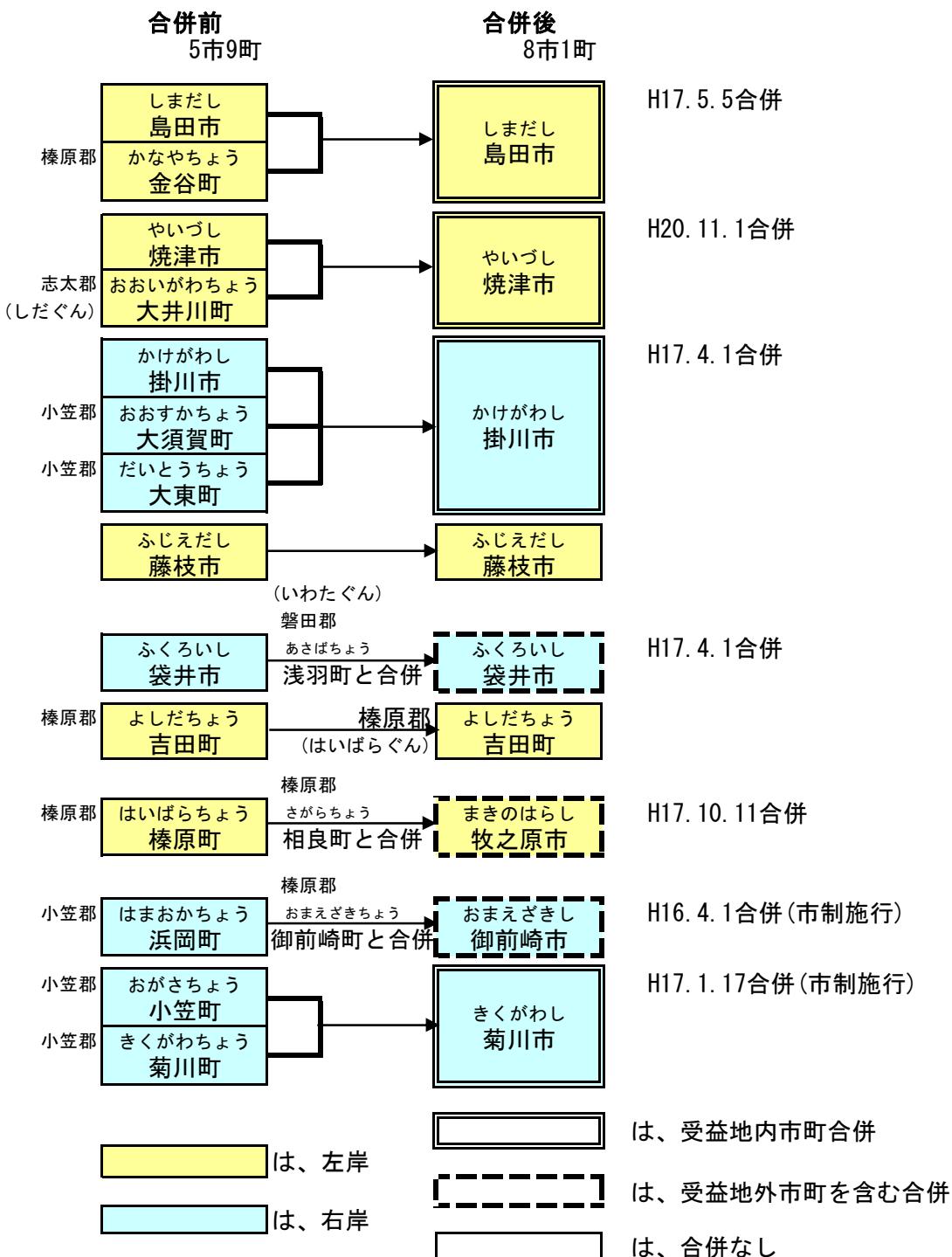
〔様式4 農業情勢等調書〕

1. 社会経済情勢の変化

(1) 関係する市町の合併促進状況(平成21年度時点)



## 関係受益市町の市町合併について



大井川用水地区

(2) 産業別就業人口の動向

項目 市町村名	総 数 (人)	農 業 (人)	林 業 (人)	漁 業 (人)	鉱 業 (人)	建設業 (人)	製造業 (人)	電気ガス熱供給水道業 (人)	運輸・通信業 (人)	卸売・小売業・飲食店 (人)	金融・保険業 (人)	不動産業 (人)	サービス業 (人)	公 務 (人)	その他の (人)	備 考
A (平成17年度現在)	島田市	52,022	4,135	30	15	101	4,522	15,595	242	2,795	9,506	999	237	6,617	1,326	5,902
	焼津市	63,003	1,455	—	460	14	5,137	18,001	269	4,635	14,250	1,460	489	8,507	1,478	6,848
	掛川市	65,814	6,145	12	19	13	4,900	22,338	351	3,305	10,846	1,005	259	8,283	1,345	6,993
	藤枝市	67,876	2,906	4	37	14	5,824	17,085	355	4,195	14,638	1,760	504	9,241	2,015	18,539
	袋井市	45,467	3,004	2	21	6	3,041	15,914	91	3,143	8,131	681	254	5,635	909	4,635
	御前崎市	19,984	2,254	—	307	14	2,324	5,805	437	798	3,459	226	45	1,960	469	1,886
	菊川市	27,226	3,645	1	3	14	1,650	9,616	139	1,143	3,756	339	89	3,043	657	3,131
	大井川町	12,530	709	—	75	15	1,086	4,047	32	1,182	2,025	219	44	1,383	512	1,201
	榛原町	14,513	2,363	—	25	25	1,044	4,573	31	614	2,237	153	55	1,577	261	1,555
	吉田町	15,890	496	1	249	7	1,240	6,453	51	1,061	2,577	185	66	1,805	278	1,421
計		384,325	27,112	50	1,211	223	30,768	119,427	1,998	22,871	71,425	7,027	2,042	48,051	9,250	52,111
比率(%)		100	7	0	0	0	8	30	1	6	18	2	1	12	2	13
B	計	365,046	27,981	72	1,135	311	32,572	120,975	2,271	21,153	67,106	7,876	1,665	72,276	8,771	882
	比率(%)	100	8	0	0	0	9	33	1	6	18	2	0	20	2	0
C	計	401,551	30,779	79	1,249	342	35,829	133,073	2,498	23,268	73,817	8,664	1,832	79,504	9,648	970
	比率(%)	100	8	0	0	0	9	33	1	6	18	2	0	20	2	0

(注) 菊川市は市町村合併につき旧小笠を含む

出展:静岡県農林水産統計年報

(3) 地域経済の動向

(単位：百万円)

年 度 区 分		現計画の直近 5ヶ年の平均 又は直近年	H14	H15	H16	H17	H18	変化の状況及びその要因
農 業 産出額	金額	9,190	9,190	9,423	9,568	9,179	8,591	農業産出額の概ねを占める野菜は天候による価格の変動により影響され増減している。
	指數	100.0	100.0	102.5	104.1	99.9	93.5	
製造品 出荷額	金額	4,266,756	4,031,164	4,124,213	4,336,585	4,371,796	4,470,022	製造品出荷額は年々増加傾向にあるが、大きな変動はない。
	指數	100.0	94.5	96.7	101.6	102.5	104.8	
商 品 販売額	金額	1,490,344	1,478,499	-	1,502,189	-	-	商品販売額に大きな変動はない。
	指數	100.0	99.2	0.0	100.8	0.0	0.0	

資料) 農業産出額 : 静岡農林水産統計年報H14～H18

製造品出荷額 : 静岡県工業統計調査報告書H14～H18

商品販売額 : 静岡県商業統計調査報告書H14、H16 (H15, 17, 18データは不明)

注 袋井市は市町村合併につき旧浅羽町を含む 牧之原市は市町村合併につき旧相良町を含む

御前崎市は市町村合併につき旧御前崎町を含む

参考 : 平成14年度、18年度 大井川用水地区農業産出額の内訳 (単位 : 産出額 百万円、比率 %)

		米	麦・雑穀 ・豆類	いも類	野菜	果実	花き	工芸 作物	種苗・木 その他	畜産	加工 農産物	合計
H 1 4	産出額	1,061	52	114	2,116	196	536	2,908	143	1,013	1,051	9,190
	比率	11.6	0.4	0.6	22.4	2.3	6.0	32.2	1.5	11.3	11.7	100.0
H 1 8	産出額	914	20	73	1,984	231	527	2,568	135	1,055	1,084	8,591
	比率	10.6	0.2	0.8	23.1	2.7	6.1	29.9	1.6	12.3	12.7	100.0

#### (4) 農業の動向

区分 項目	農 家			土 地			主要作物			大家畜			動力農機具			地域指定等	備考
		B	A		B	A	作物名	B	A	家畜名	B	A	農機具名	B	A		
変化の状況 (C年を100とする指標)	総農家数	86	72	耕地	92	84	水稻	84	82	乳用牛	68	63	動力農用トラクター(30PS未満)	91	82	農業振興地域指定年月日 旧成田市 東金市 八街市 旧山武町 千葉市 佐倉市 富里市	A:平成17年 (2005年農林業センサス)  B:平成12年 (2000年世界農林業センサス)
	專業農家数	96	98	田	90	80	ばれいしょ	90	87	肉用牛	97	81	動力農用トラクター(30PS以上)	169	201		
	第一種兼業農家数	80	71	畑	97	88	トマト	93	96	豚	60	38	動力防除機	65	53		
	第二種兼業農家数	87	66	樹園地	93	88	レタス	94	96				動力田植機	84	66		
	農業従事者数	93	93				温室メロン	86	73				自脱型コンバイン	97	100		
変化の理由	都市化の進展に伴う他産業への就業、農地の転用等により総農家数、兼業農家数は減少傾向にあるものの専業農家数は下げ止まっている。			耕地面積は、都市化の進展に伴う農地の転用等により減少している。			耕地面積や農家の減少により主要作物の作付面積は、減少傾向にあるが、産地指定されているトマト、レタスは近年増加傾向にある。			都市化の進展に伴う畜産農家の減少により家畜頭数は、減少傾向にある。			ほ場整備の実施に伴い農機具の大型化が進み、30馬力以上のトラクターの数が大幅に増加している。			野菜指定産地 冬春トマト S41年 島田市、焼津市、藤枝市 掛川市、旧浜岡町、菊川市  冬レタス S44年 島田市、焼津市、藤枝市、牧之原市 吉田町、掛川市、旧浜岡町 菊川市、袋井市  春夏にんじん S62年 掛川市  秋冬だいこん S43年 牧之原市、吉田町  酪農肉用牛生産近代化指定：H12年 島田市、藤枝市、掛川市 御前崎市、菊川市、袋井市	C:平成7年 (1995年農業センサス)  S44年 島田市、焼津市、藤枝市、牧之原市 吉田町、掛川市、旧浜岡町 菊川市、袋井市  S62年 掛川市  S43年 牧之原市、吉田町  H12年 島田市、藤枝市、掛川市 御前崎市、菊川市、袋井市

(5) 経営耕地面積規模別農家数及び専兼業別農家数

区分	農家戸数	経営耕地面積規模別農家数(戸)										1戸当たり平均 農用地面積(ha)					専兼業別農家数(戸)		備考		
		例外規定	0.3ha	0.5ha	1.0ha	1.5ha	2.0ha	3.0ha	5.0ha	10.0	自給的農家	田	畠	樹園地	計	草地	計	専業	兼業		
			0.5ha	1.0ha	1.5ha	2.0ha	3.0ha	5.0ha	10.0	以上								第一種	第二種		
市町村名																					
(平成17年度)	島田市	1,320		364	434	224	128	132	38	-	0	0	0.4	0.2	0.9	1.5	-	1.5	224	413	A:平成17年 (2005年世界農林業センサス)
	金谷町	724		132	194	130	78	129	58	3	0	0	0.3	0.1	1.3	1.6	-	1.6	131	296	297
	焼津市	850		401	379	49	8	7	3	1	2	0	0.6	0.1	0.2	0.9	-	0.9	85	132	633
	掛川市	1,903		520	632	268	153	206	105	14	5	0	0.6	0.1	0.9	1.6	-	1.6	357	585	961
	大須賀町	296		118	68	29	21	21	23	11	5	0	1.6	0.4	1.5	3.5	-	3.5	65	123	108
	大東町	787		298	292	107	41	27	13	6	3	0	0.6	0.4	0.5	1.5	-	1.5	139	236	412
	藤枝市	1,699		511	745	210	109	93	28	2	1	0	0.5	0.1	0.7	1.3	-	1.3	258	411	1,030
	袋井市	1,051		283	375	143	64	73	50	37	26	0	1.5	0.2	1.1	2.7	-	2.7	199	304	548
	大井川町	615		280	252	51	12	7	5	7	1	0	0.7	0.1	0.2	1.0	-	1.0	70	66	479
	吉田町	254		97	85	31	17	16	6	2	0	0	0.7	0.1	0.4	1.2	-	1.2	48	63	143
	榛原町	1,084		167	258	184	138	224	102	9	2	0	0.5	0.2	1.3	2.0	-	2.0	213	441	430
	浜岡町	1,052		387	363	137	66	56	24	15	4	0	0.8	0.4	0.7	1.9	-	1.9	214	328	510
	菊川市	1,896		329	614	376	198	225	116	30	8	0	0.6	0.2	1.0	1.8	-	1.8	288	667	941
	計	13,531	0	3,887	4,691	1,939	1,033	1,216	571	137	57	0	0.7	0.2	0.8	1.7	-	1.7	2,291	4,065	7,175
	比率(%)	100	0	29	35	14	8	9	4	1	0	0	41	12	47	100	0	100	17	30	53
B	計	21,679	610	4,087	6,029	2,420	1,228	1,243	452	104	44	5,462	0.6	0.2	0.7	1.6	-	1.6	2,236	4,544	9,437
	比率(%)	100	3	19	28	11	6	6	2	0	0	25	36	10	41	100	0	100	10	21	44
C	計	24,257	656	4,813	7,167	2,942	1,540	1,271	337	77	35	5,419	0.5	0.1	0.6	1.3	-	1.3	2,340	5,695	10,803
	比率(%)	100	3	20	30	12	6	5	1	0	0	22	42	11	47	100	0	100	10	23	45

## 2. 費用対効果分析の基礎となる要因の変化

### (1) 営農計画

	現計画 (H20年3月)		再評価 (H21年3月)		見通し等		
	現況		計画				
	作付面積 (ha)	単位面積 当り収量 (kg/10a)	作付率 (%)	作付面積 (ha)	単位面積 当り収量 (kg/10a)	作付率 (%)	
<b>田本地面積</b>							
田(表作)	6,587			6,587			現計画の営農計画は、関係市町の農業振興地域整備計画及び地域水田農業ビジョン等を基に策定した。
水稻	4,584	521	73.0	4,584	516	73.0	① 水稻 本地区の大部分が水田であることから、古くから地域営農の基幹作物となっている。主な品種はコシヒカリ、あいちのかおり、キヌヒカリなどである。 関係市町の地域水田農業ビジョン等各種振興計画で振興作物として位置づけられていることから、水田の代表作物として振興し生産量の安定と確保を図り現状を維持する。
大豆	178	114	3.0	178	106	3.0	
かんしょ	77	1,983	1.0	77	1,961	1.0	
きゅうり	27	5,222		27	5,107		
トマト	130	6,675	2.0	130	6,630	2.0	
いちご	146	3,595	2.0	146	3,638	2.0	
ねぎ	89	2,166	1.0	89	2,175	1.0	
さといも	59	1,394	1.0	59	1,412	1.0	
ソルガム	404	6,129	6.0	404	6,067	6.0	
加工青刈り稻	144		2.0	144		2.0	
加工米	94	521	2.0	94	516	2.0	
トルコキキョウ	112	35,000	2.0	112	35,000	2.0	
調整水田	67		1.0	67		1.0	
自己保管管理	224		4.0	224		4.0	
小計	6,335		100.0	6,335		100.0	
田(裏作)							
小麦	274	242	22.0	274	230	22.0	
だいこん	70	5,422	6.0	70	5,347	6.0	
にんじん	34	3,594	3.0	34	3,455	3.0	
レタス	817	2,482	67.0	817	2,464	67.0	
たまねぎ	22	2,595	2.0	22	2,704	2.0	
小計	1,217		100	1,217		100	
田計	7,551			7,551			
<b>普通畑本地面積</b>							
普通畑(春夏)	589			589			
大豆	22	114	4	22	106	4.0	① メロン 砂丘海岸の畑作物として栽培が定着している。特に、温暖な気候を利用して簡易なビニールハウスによる栽培が可能であり、主な品種はアールスナイトである。 関係市町の振興計画では、大井川町で基本的な構想に、菊川市でも農振計画及び中遠計画に位置づけられておりいる。
かんしょ	36	1,983	6	36	1,961	6.0	
いちご	56	3,595	10	56	3,638	10.0	
メロン	163	2,731	28	163	2,733	28.0	
温室メロン	91	3,048	15	91	2,997	15.0	
ねぎ	31	2,166	5	31	2,175	5.0	
ばれいしょ	85	1,952	14	85	1,740	14.0	
きく	32	35,000	5	32	34,000	5.0	
ソルガム	74	6,129	13	74	6,067	13.0	
小計	590		100	590		100	
普通畑(秋冬)							
だいこん	31	5,422	37	31	5,347	37.0	② 温室メロン 温室メロンは、冬季温暖な気象条件を生かし、ガラス温室での栽培が行なわれている。既にマスクメロンとしてのブランドの地位を確立しており、市場の評価も高い作物である。 掛川市他5市町で振興作物として位置づけられていることから、今後も振興を図る。
にんじん	9	3,594	11	9	3,455	11.0	
キャベツ	27	3,247	33	27	3,302	33.0	
トマト	16	6,675	19	16	6,630	19.0	
小計	83		100	83		100	
普通畑計	673			673			
合計	8,224			8,224			

単収出展: 静岡県農林水産統計年報

(2) 農業振興計画等の見直し状況(県)

振興計画名/作物名等	現計画の基礎となった振興計画	同左の現在の計画内容	変更内容及びその理由等
静岡県地域水田農業ビジョン 1.地域水田ビジョンの実現	<p>静岡県 地域水田農業ビジョン (策定年度 : 平成16年度・平成19年度変更)</p> <p>平成18年7月、経営所得安定対策等実施要綱が決定され、新たな対策として「品目横断的経営安定対策」や米改革においては、「新たな需給調整システム」に移行することが決定した。</p> <p>これらの施策は、これまでの品目毎の施策から認定農業者等の担い手に特化した政策への転換であり、将来の水田農業経営が安定的に持続される構造への変革を進めるものである。</p> <p>静岡県では、産地間競争の激化による米産地からの販売攻勢や、消費減退などの米価低迷傾向を受けて水田農業経営は厳しい状況にあり、今後の水稻、麦、大豆の生産振興など水田農業のあり方が問われている。</p> <p>米政策改革は21年度までであり、この限られた期間の中で本県が進むべき水田農業の方向性を明確にすることが必要である</p>	変更なし	
2.重点取組方針	<p>水稻</p> <p>① 販売を起点とした生産・集荷の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・品質のばらつきをなくした高品質米生産地の育成</li> </ul> <p>実需者や消費者が期待する安定品質に向けて、県内産の課題となっている品質のばらつきについては、引き続きコシヒカリを対象に食味加算による区分集荷を実施するとともに、新たにほ場レベルでカメラによる撮影分析を実施し、適正な穗肥の診断による産地レベルの品質ばらつきを改善する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・需要に即した生産・集荷・販売計画</li> <li>・需要情報の的確な伝達と生産企画提示</li> </ul> <p>② JA米ブランドの確立と安全・安心の取組み</p> <p>③ 安定した水田農業経営体の育成</p> <p>米価の低迷などの影響下で経営判断が必要な時期に直面しているため、国の水田経営所得安定対策や新たな需給調整システム等の関連施策の円滑な推進と合わせ、関係機関の緊密な連係のもとに地域の核となる経営体を早急に育成し、地域全体の水田農業の新たな仕組みづくりを構築する。</p> <p>水田の高度利用として、麦後の新たな作物として白ネギやタマネギの作付導入等を実証する。</p> <p>④ 水田農業構造改革の推進</p> <p>新たな需給調整システムの円滑な推進と産地づくり対策を活用して麦・大豆以外の新たな産地育成に積極的に取組むとともに、水田農業ビジョンで位置づけされた担い手に対し、的確な情報提供やニーズに対応した指導を実施する。</p>		
3.新需給調整システム定着の方針	<p>① 大幅な超過達成に対する助成</p> <p>本県は、米の消費県であり、需要に応じた米づくりを推進する観点から、大幅な超過達成に対する助成は行わない。</p>		

振興計画名/作物名等	現計画の基礎となった振興計画	同左の現在の計画内容	変更内容及びその理由等
	<p>② 地域振興作物の振興に対する助成        ア、作物選定        定着推進作物は以下の11品目とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 麦（小麦、六条大麦、二条大麦）</li> <li>・ 大豆（白大豆）</li> <li>・ 稲発酵粗飼料用稻</li> <li>・ そば</li> <li>・ ナバナ(生食)</li> <li>・ ノブキ</li> <li>・ スイートコーン</li> <li>・ ヤマトイモ</li> <li>・ レタス</li> </ul> <p>イ、新規導入作物        新規導入作物は以下の5品目とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 白ネギ</li> <li>・ 黒大豆(未成熟及び子実)</li> <li>・ タマネギ</li> <li>・ ゴーヤ</li> <li>・ 飼料用米</li> </ul> <p>③ その他意欲的な生産調整の取組みに対する助成        地域の特性を生かした多様な水田利用や作物生産を推進する観点から、地域水田農業ビジョンに基づき実施されるエネルギー資源作物としての菜種の栽培や学校等での農業体験に活用するひまわり栽培、遊休水田の解消にかかる作物作付や新規生産調整参加者の作物作付に対し助成する。</p>	変更なし	

(2) 農業振興計画等の見直し見直し状況（市町）

振興計画名/作物名等	現計画の基礎となった振興計画	同左の現在の計画内容	変更内容及びその理由等
島田市地域水田農業ビジョン 1.農業の特性	<p>島田市 地域水田農業ビジョン(島田市と金谷町はH17.5月合併) (策定年度 平成17年)</p> <p>1. 島田地区 島田地区的農業は、基幹作物である茶を中心に水稻、ミカン、施設野菜、花卉、レタス及び畜産などが多様に営まれている。平成13年の地区的農家数は1588戸で、全世帯の6.5%を占めているが、そのうち専業農家は209戸である。また、1,379戸の兼業農家のうち第二種兼業農家が1,124戸で、今後この傾向はさらに高くなると予想される。また、農産物の輸入自由化をはじめ米、ミカンの構造的な生産過剰や米の消費減退が農家経営を圧迫しており、基幹農業従事者の減少と高齢化により耕作放棄地や荒廃農地が増加する傾向にある。</p> <p>2. 金谷地区 金谷地区的農業は、茶栽培を中心に発展してきた。平成13年の農家数は877戸で全世帯の14%を占めているが、専業農家は112戸と少ない。また、第二東名高速道路用地及び宅地化等に伴う耕地面積の減少や農業従事者の高齢化及び兼業化による労働力の低下により、耕作放棄地や荒廃農地が増加の傾向にある。</p>	変更なし	
2水田農業の現状	<p>1. 島田地区 ・生産調整の拡大に伴い、水稻作付面積及び収穫量は年々減少し、平成14年の水稻作付面積は463ha、10a当り収量は527kg、となっている。 ・平成12年から14年までの3か年の10a当り収量をみると、12年529kg、13年536kg、14年527kgと比較的安定した収穫量となっている。 ・作付品種は、消費者の嗜好を反映しキヌヒカリ、ひとめぼれ、コシヒカリを中心として、あいのかおり、あさひの夢といった良食味品種の作付が増加している。 ・島田地区は、全国・県を代表する秋冬レタスの産地であり、その前作となる稲の作付もレタスにあわせた品種構成と作付が行われている。</p> <p>2. 金谷地区 ・生産調整の拡大に伴い、水稻作付面積及び収穫量は年々減少し、平成14年の水稻作付面積は171ha、収穫量は898t、10a当り収量は525kgである。 ・水稻栽培農家は、飯米や縁故米又は水田維持を目的とした作付を行なう農家が大半を占め、30a未満の農家が全体の80%を占めている。 ・作付品種は、あいちのかおり、ヒノヒカリを中心とした良食味品種の作付が増加している。</p>		

振興計画名/作物名等	現計画の基礎となった振興計画	同左の現在の計画内容	変更内容及びその理由等
3米の生産調整の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消費者嗜好の強いコシヒカリ、キヌヒカリといった品種についての作付が少なく、飯米や縁故米の農家が大半を占めている。</li> <li>・米の1人当たり年間消費量が年々低下傾向にあるなか、有効な米消費対策の一つとして加工米の利用も今後継続して推進する。</li> </ul> <p>1. 島田地区</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産調整の取組は、調整水田や保全管理が多く、実績参入率が52.1%と県平均率53.9%より低いが、全国平均の26.8%に比べると高い数値を示している。</li> <li>・作物作付は、麦、大豆、飼料作物の一般作物の占める比率が18.4%で県平均20.3%より低い。 また、露地野菜や施設園芸を中心に作付された水田に導入された作物は、麦、大豆、シソ、サトイモ、スイートコーン、花卉である</li> </ul> <p>2. 金谷地区</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産調整の取組は、保全管理や実績参入による対応が多く実績参入率66.2%と県平均5.9%より高い。</li> <li>・転作作物は、家庭菜園を含む野菜が19.9%と多いが、大豆等の一般作物は6.3%で全国平均の46.7%に比べると低い。 また、基幹作物である茶に地目変更する農家が多い。</li> </ul>	変更なし	
4. 作物振興及び水田利用の将来方向	<p>①水田営農は、水田の有効利用と流動化を促進し、農地の集積を図るとともに担い手の育成確保に努める。また、地産地消の観点から加工米等地域の特性を活かした水稻栽培を中心とした農産物の生産を振興し、自給率の向上を図る。</p> <p>②農道や用排水路の整備等基盤整備を図り、機械作業の効率化を高め、省力化とコスト低減を図る。</p> <p>③作物振興は、水田の生産所得の向上を目指し、特産のレタス、シソ、施設園芸(チンゲンサイ、サンチエ、ほうれんそう)、花卉の振興を図る。 また、水田の有効利用、地力の増進、農地の環境美化からレンゲ、コスモス、ひまわり、菜の花、ソバで農村景観の保全、都市住民とのふれあいの場の確保を推進する。</p>		

振興計画名/作物名等	現計画の基礎となった振興計画	同左の現在の計画内容	変更内容及びその理由等																								
農業振興地域整備計画 基礎資料 (平成19年9月改訂)	<p>農業振興地域整備計画基礎資料による生産目標 農業振興地域整備計画基礎資料による作物別の生産目標は以下のとおりである。 (島田市)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>作物名</th> <th>現況(H19)</th> <th>目標(H27)</th> </tr> <tr> <th></th> <th>ha</th> <th>ha</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>水稻</td> <td>632</td> <td>630</td> </tr> <tr> <td>レタス</td> <td>130</td> <td>221</td> </tr> <tr> <td>いちご</td> <td>5</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>チングンサイ</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>花き</td> <td>12</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>飼料作物</td> <td>1</td> <td>13</td> </tr> </tbody> </table>	作物名	現況(H19)	目標(H27)		ha	ha	水稻	632	630	レタス	130	221	いちご	5	6	チングンサイ	3	3	花き	12	15	飼料作物	1	13	変更なし	
作物名	現況(H19)	目標(H27)																									
	ha	ha																									
水稻	632	630																									
レタス	130	221																									
いちご	5	6																									
チングンサイ	3	3																									
花き	12	15																									
飼料作物	1	13																									
焼津市地域水田農業ビジョン (平成19年12月大井川町と合併) 1.農業の特性	<p>焼津市 地域水田農業ビジョン (策定年度 平成18年) 大井川町 地域水田農業ビジョン (策定年度 平成18年)</p> <p>1. 焼津地区 温暖な気候と交通網など立地条件に恵まれ、平野部では水稻や施設野菜、露地野菜を中心に、山間部では茶、みかんなど集約性の高い農業が展開されている。 しかし、近年水稻やみかんの構造的な生産過剰のなかで、米消費の高い農業が展開されている。伸び悩み、農産物の価格低迷など農業を取巻く環境は厳しい状況にある。</p> <p>2. 大井川地区 温暖な気候に恵まれ、全域が平坦な地形である。当地区の農業は、大井川用水の安定供給により、水稻を中心に多くの施設野菜、施設園芸など集約性の高い農業が展開されている。 しかし、近年は米消費の伸び悩み、農産物の価格低迷など農業を取巻く環境は非常に厳しい状況になっている。</p>																										

振興計画名/作物名等	現計画の基礎となった振興計画	同左の現在の計画内容	変更内容及びその理由等
2. 水田農業の現状	<p>1. 焼津地区</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水田面積の推移は、近年の宅地化、工業誘致等の都市的土地区画整理事業によるかい廃が進み、平成17年度は750haで、最近5ヵ年間で53ha減少している。</li> <li>・水田の基盤整備状況は、稲作を目的とした土地改良事業が昭和44年に完了し、その80%は1区画が5a以下である。水田の立地は河川の最下流部に位置し、海岸部に近いところでは潮の干満の影響を受けやすい。</li> <li>・水稻の生産は、平成17年で作付面積560ha、収穫量2,970t、10a当たり収穫量531kgである。</li> <li>稻作農家は、飯米確保や資産として水田維持を目的に作付をする農家が大半で、50a以下の経営耕地きぼが65%である。一方、先進的な経営体を目指す農家や収益性の高い作物と水稻を組合わせた複合経営体を目指す大型農家がある。</li> </ul> <p>2. 大井川地区</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成17年の水稻作付面積は463ha、生産量2,460t、10a当たり収穫量531kgで主要作物となっている。</li> <li>・米の流通は、平成17年で農協出荷12%、農家自らで販売や農家消費等が88%で、品種別ではあいちのかおり、コシヒカリ、あさひの夢の順で出荷量が多い。</li> <li>・水稻栽培農家は、飯米や縁故米、また水田維持を目的とした作付けを行なう農家が大半を占めている。</li> <li>また、水田営農組合員等の担い手が主となって農地を集積し、収益性の高い施設園芸作物と水稻を組合わせた水稻経営となっている。</li> </ul>	変更なし	
3. 作物振興及び水田利用の将来方向	<p>1. 焼津地区</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①米の生産量の大半は自家消費する地域であるため、作物振興は水稻中心と、水稻複合経営に区分する。</li> <li>②担い手の振興作物として、小麦、菜の花とし、菜の花は景観形成作物とし、あるいはバイオマス資源として活用する。</li> <li>③兼業農家の振興作物は、水稻以外の転作作物の作付が困難なことから、取組みやすい加工用米とする。</li> <li>④その他の振興作物として、地産地消の観点から、学校給食や朝市等を通じ都市近郊型農業の確立を目指す。作物としては、花卉、大豆、飼料作物、野菜を推進し中でも地区の特産である菊、トマトの生産拡大を図る。</li> </ol> <p>2. 大井川地区</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①米の年間消費量が年々低下傾向にあるなか、有効な米消費対策の1つとして加工米の利用も今後継続する。</li> </ol>		

振興計画名/作物名等	現計画の基礎となった振興計画	同左の現在の計画内容	変更内容及びその理由等																																																																											
農業振興地域整備計画 基礎資料 (平成19年8月改訂)  (平成19年9月改訂)	<p>②小麦栽培は、現行どおり土地利用集積型の作業体系の中で、作業受委託を計画的に行い、作付面積の拡大を現生産者を中心伸ばすとともに、低コスト・高品質安定生産技術の確立をはかる。          ③米の生産調整の対策として、大豆、飼料作物、野菜、たばこ、永年作物は今後も推進する。</p> <p>農業振興地域整備計画基礎資料による生産目標          農業振興地域整備計画基礎資料による作物別の生産目標は以下のとおりである。          (焼津市)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>作物名</th> <th>現況(H19)</th> <th>目標(H27)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>ha</td> <td>ha</td> </tr> <tr> <td>水稻</td> <td>551</td> <td>550</td> </tr> <tr> <td>ほうれんそう</td> <td>4</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>きゅうり</td> <td>4</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>トマト</td> <td>9</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>いちご</td> <td>1</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>花き</td> <td></td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>飼料作物</td> <td></td> <td>35</td> </tr> </tbody> </table> <p>(大井川町)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>作物名</th> <th>現況(H19)</th> <th>目標(H27)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>ha</td> <td>ha</td> </tr> <tr> <td>水稻</td> <td>410</td> <td>400</td> </tr> <tr> <td>ほうれんそう</td> <td>4</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>セルリー</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>ブロコリ</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>レタス</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>ネギ</td> <td>12</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>たまねぎ</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>キュウリ</td> <td>7</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>トマト</td> <td>15</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>さやえんどう</td> <td>1</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>えだまめ</td> <td>11</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>いちご</td> <td>6</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>花き</td> <td>7</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>飼料作物</td> <td></td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>	作物名	現況(H19)	目標(H27)		ha	ha	水稻	551	550	ほうれんそう	4	6	きゅうり	4	6	トマト	9	20	いちご	1	3	花き		8	飼料作物		35	作物名	現況(H19)	目標(H27)		ha	ha	水稻	410	400	ほうれんそう	4	6	セルリー	2	2	ブロコリ	3	4	レタス	1	1	ネギ	12	18	たまねぎ	2	2	キュウリ	7	9	トマト	15	18	さやえんどう	1	3	えだまめ	11	11	いちご	6	7	花き	7	8	飼料作物		4	変更なし	
作物名	現況(H19)	目標(H27)																																																																												
	ha	ha																																																																												
水稻	551	550																																																																												
ほうれんそう	4	6																																																																												
きゅうり	4	6																																																																												
トマト	9	20																																																																												
いちご	1	3																																																																												
花き		8																																																																												
飼料作物		35																																																																												
作物名	現況(H19)	目標(H27)																																																																												
	ha	ha																																																																												
水稻	410	400																																																																												
ほうれんそう	4	6																																																																												
セルリー	2	2																																																																												
ブロコリ	3	4																																																																												
レタス	1	1																																																																												
ネギ	12	18																																																																												
たまねぎ	2	2																																																																												
キュウリ	7	9																																																																												
トマト	15	18																																																																												
さやえんどう	1	3																																																																												
えだまめ	11	11																																																																												
いちご	6	7																																																																												
花き	7	8																																																																												
飼料作物		4																																																																												

振興計画名/作物名等	現計画の基礎となった振興計画	同左の現在の計画内容	変更内容及びその理由等
掛川市地域水田農業ビジョン (大須賀町と大東町は平成 17年4月掛川市と合併)	掛川市地域水田農業ビジョン (策定年度 平成18年) 大須賀地域水田農業ビジョン (策定年度 平成18年) 大東地域水田農業ビジョン (策定年度 平成18年)	変更なし	
1.農業の特性	<p>1. 掛川地域          地域は、温暖な気候と市場・消費地への交通の利便性等、生産活動に適した条件に恵まれている。          農業は、特産作物である茶を中心に水稻、畜産、園芸作物・花卉等の生産が行なわれている。水田面積1,600haのうち水稻が作付されているのは830ha、残りは転作作物及び不作付である。          生産調整は、バラ転対応で水田を利活用した水稻以外の作物での集団化・土地集積の事例はほとんどない。イチゴ、イチジクをはじめとする商品価値の高い園芸作物での産地形成の動きもみられるが、自家消費用の野菜生産と自己保全管理が大部分を占める。</p> <p>2. 大須賀地域          地域は、温暖な気候や豊富な日照条件等の恵まれた自然環境と海岸砂地土壤の立地条件を活かし、水稻、茶、温室メロン、苺、石川小芋等の商品価値の高い多種多彩な農産物が生産されている。          1経営体当たりの耕作面積は、昭和62年頃から集落による協業化を推進した結果、水田の流動化団地化が進み増加傾向にある。</p> <p>3. 大東地域          本地域は、全国に先駆けて水田農業の協業化を進め、農業法人の立上げに成功し、独自の地域農業を発展させてきた。          生産基盤はほぼ全域において整備が終わり、これをを利用して水稻、小麦生産による土地利用型農業も確立されている。</p>		
2.水田農業の現状	<p>1. 掛川地域          水田面積は1,600haでうち水稻の作付面積は約830haである。          主要な転作作物は、茶と野菜類、次いでクリ、イチゴ等となっている。茶は当地域の主要農産物であり、面積当りの生産額も水稻の約3倍となっている。          イチゴは面積当りの生産額は大きいが、施設導入にかかる経費が大きく、急激な生産の拡大は望めないものの、後継者や新規栽培者の開拓、規模拡大が進んでいる。          茶とイチゴの栽培を除くと、収益性の低い土地利用が大部分を占めている。</p> <p>2. 大須賀地域          水田農業の活性化を図るには、担い手による経営体の体质強化を図るとともに、永続的に適正な管理が行なわれるよう、土台づくりが必要である。そのためには、担い手への流動化をはじめとして、栽培履歴等品質管理体制の整備による「安全で安心な農産物」の供給、「売れる品種」の選定、団地化・機械化</p>		

振興計画名/作物名等	現計画の基礎となった振興計画	同左の現在の計画内容	変更内容及びその理由等
3.作物振興及び水田利用の将来方向	<p>による「低コスト生産」、市内における流通経路の確保等を農業者、農業者団体及び関係機関が一体となって推進する。加えて、大井川用水、排水対策等の条件整備を進めることにより、大規模水田経営の実現を目指す。</p> <p>3. 大東地域 近年の農業をとりまく諸情勢は、農産物の需給不均衡、価格の低迷等依然として厳しい状況にあり、農業者の高齢化・兼業化による労働力の低下やこれらに伴う農地の遊休化が懸念される。</p> <p>1. 掛川地域 ・ほ場整備の実施された優良水田については、水稻の作付を推進する。水稻については売れる米作りを目指し、有機栽培、減農薬減化学肥料栽培の導入などを積極的に推進する。 最重要品種をコシヒカリとし、他にキヌヒカリ、あさひの夢、あいちのかおりの3品種を重点品種とする。 ・水稻の効率的な栽培が困難な暖傾斜地の水田については、畑地化を推進し機械導入が可能な茶園の造成又は樹園地への転換を進める。 ・天候に左右されず安定性・計画性をもって出荷が行なえるハウス栽培によるイチゴ、イチジクの栽培を推進する。また、ハウスによる野菜、花卉の栽培も支援する。 ・振興作物として売れる米作り ・茶、イチゴ、イチジク、ハウス野菜、花卉、大豆、トマト、クリ、メキャベツ、飼料作物、麦</p> <p>2. 大須賀地域 ・水等はこれまで多種多様な栽培されてきたが、今後は消費者ニーズの高いコシヒカリ、キヌヒカリ、あいちのかおりを推進品種として計画的な生産を行なう。 ・麦はこれまでどおり実需者の要望に応えるため、気象変動に順応できる栽培を行い、高品質小麦の生産に努める。 ・大豆は実字需者との契約栽培と平行して、これまで行なわれてきた豆腐や味噌などの加工品の充実を図り、販路拡大する。</p> <p>3. 大東地域 ・水田における土地利用型農業を活性化するため、法人、個人への土地利用集積、水田の汎用化を図る基盤整備を推進するとともに、麦の本格的な定着・拡大や限定した作物の産地化を図る。 ・振興作物として、コシヒカリを中心とする水等、小麦、大豆、飼料作物、メキャベツ、菜種、ヒマワリ、レンゲ等の景観作物とする。 ・全域において取組む作物を選定し、低成本・高品質安定生産技術の確立を図ると共に、それら作物の産地化を進める。 また、青刈り稻、調整水田、自己保全管理については、生産調整を達成するための手段として活用していく。</p>	変更なし	

振興計画名/作物名等	現計画の基礎となった振興計画	同左の現在の計画内容	変更内容及びその理由等																																							
農業振興地域整備計画 基礎資料 (平成19年2月改訂)	<p>農業振興地域整備計画基礎資料による生産目標 農業振興地域整備計画基礎資料による作物別の生産目標は以下のとおりである。 (掛川市)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>作物名</th> <th>現況(H19) ha</th> <th>目標(H27) ha</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>水稻</td><td>1,620</td><td>1,610</td></tr> <tr><td>小麦</td><td>164</td><td>148</td></tr> <tr><td>かんしょ</td><td>69</td><td>69</td></tr> <tr><td>大豆</td><td>63</td><td>70</td></tr> <tr><td>にんじん</td><td>58</td><td>48</td></tr> <tr><td>レタス</td><td>12</td><td>14</td></tr> <tr><td>トマト</td><td>25</td><td>22</td></tr> <tr><td>いちご</td><td>48</td><td>51</td></tr> <tr><td>温室メロン</td><td>46</td><td>43</td></tr> <tr><td>すいか</td><td>27</td><td>27</td></tr> <tr><td>花き</td><td>12</td><td>12</td></tr> <tr><td>飼料作物</td><td>76</td><td>76</td></tr> </tbody> </table>	作物名	現況(H19) ha	目標(H27) ha	水稻	1,620	1,610	小麦	164	148	かんしょ	69	69	大豆	63	70	にんじん	58	48	レタス	12	14	トマト	25	22	いちご	48	51	温室メロン	46	43	すいか	27	27	花き	12	12	飼料作物	76	76	変更なし	
作物名	現況(H19) ha	目標(H27) ha																																								
水稻	1,620	1,610																																								
小麦	164	148																																								
かんしょ	69	69																																								
大豆	63	70																																								
にんじん	58	48																																								
レタス	12	14																																								
トマト	25	22																																								
いちご	48	51																																								
温室メロン	46	43																																								
すいか	27	27																																								
花き	12	12																																								
飼料作物	76	76																																								

振興計画名/作物名等	現計画の基礎となった振興計画	同左の現在の計画内容	変更内容及びその理由等
藤枝市地域水田農業ビジョン	藤枝市 地域水田農業ビジョン (策定年度 平成18年)		
1. 農業の特性	<p>本地域は、静岡県のほぼ中央部に位置し、丘陵地帯は標高300m前後の山が南に広がり、この急傾斜地の山腹に階段状の畑が造成され、みかん、茶が栽培されている。さらに、南に下がった平野は水田地帯となっている。</p> <p>地域の西南端を大井川が流れ、平野部一体はこれらの河川の沖積層によってできた沖積平野で、地味肥沃なため古くから水稻をはじめ、いちご、トマト、きゅうり、花卉など施設園芸が盛んで、用水はほとんど河川の表流水によってまかなわれている。</p> <p>水田農業の現状は、都市化の進展等により、総農家数が急激に減少し、自給的農家がやや増加している。また、農業労働力の高齢化と耕作放棄地や農業の担い手確保が大きな課題となっている。</p>	変更なし	
2. 水田農業の現状	地域の水田は、南部の平野部を中心に広がっており、農家一戸あたりの平均所有水田面積は45a程度で、気象条件や排水不良、ほ場区画も小さいことから水田における麦大豆等の土地利用型作物については生産性、品質面で解決すべき課題が多い。		
3. 作物振興及び水田利用の将来方向	<p>水田における不作付地の解消を目指し、安定した水田農業の確立を図るため以下の対策に取組む。</p> <p>①南部地域は、遊休農地の解消及び生産調整の推進を目的に麦、大豆、の定着、拡大を図っていく。</p> <p>②転作作物研究会で検討された作物から換金性が高く、有望作物であるイチジク、枝豆に加えて、耕畜循環型農業を目指して飼料作物(青刈りとうもろこし、ソルガム、イタリアンライグラス)を積極的に推進する。</p> <p>③売れる米づくりのため、水系別品種統一による品種・収益向上を図る。静岡コシヒカリを中心とする米づくり及び作業効率・品質・収益の向上を目指した品種統一を行なう。</p> <p>④地域にまたがった農産物集荷について一元集荷を目指し、合理化を図っていく。また、市場流通だけに頼らず、市場外流通を目指し、農協直売施設ファーマーズマーケット設立を検討する。</p> <p>⑤不作付地の解消、作物の統一化、作業効率を向上させるため、担い手の育成を図る。特に、グリーンファーマーズ藤枝については法人が設立されたことで、南部3地域の水田保全を図り、農地の利用推進と担い手の組織化を推進する。</p>		

振興計画名/作物名等	現計画の基礎となった振興計画	同左の現在の計画内容	変更内容及びその理由等																																	
農業振興地域整備計画 基礎資料 (平成19年9月改訂)	<p>農業振興地域整備計画基礎資料による生産目標 農業振興地域整備計画基礎資料による作物別の生産目標は以下のとおりである。 (藤枝市)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>作物名</th> <th>現況(H19)</th> <th>目標(H27)</th> </tr> <tr> <th></th> <th>ha</th> <th>ha</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>水稻</td> <td>731</td> <td>730</td> </tr> <tr> <td>レタス</td> <td>47</td> <td>52</td> </tr> <tr> <td>ねぎ</td> <td>7</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>きゅうり</td> <td>6</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>なす</td> <td>6</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>トマト</td> <td>6</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>みつば</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>花き</td> <td></td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>飼料作物</td> <td></td> <td>80</td> </tr> </tbody> </table>	作物名	現況(H19)	目標(H27)		ha	ha	水稻	731	730	レタス	47	52	ねぎ	7	8	きゅうり	6	8	なす	6	7	トマト	6	7	みつば	1	1	花き		13	飼料作物		80	変更なし	
作物名	現況(H19)	目標(H27)																																		
	ha	ha																																		
水稻	731	730																																		
レタス	47	52																																		
ねぎ	7	8																																		
きゅうり	6	8																																		
なす	6	7																																		
トマト	6	7																																		
みつば	1	1																																		
花き		13																																		
飼料作物		80																																		
袋井市地域水田農業ビジョン (袋井市は平成17年4月浅羽町と新設合併し袋井市に)	<p>袋井市 地域水田農業ビジョン (策定年度 平成17年度 一部改正平成18年度)</p> <p>1. 農業の特性</p> <p>地域は、県の西部、中遠地域のほぼ中央に位置し、昔から中遠の穀倉地帯と呼ばれ温暖な気候と恵まれた市場条件を活かすとともに、農業者の旺盛な研究と先取りの気性で集積された生産技術によって水稻、麦、大豆等水田土地利用型農業と、茶、温室メロン、花きなどの集約型農業により、多種多様な特色ある農産物を生産してきた。</p> <p>しかし、近年の農業を取巻く諸情勢は、農産物の需給不均衡、価格の低迷等依然として厳しい状況にあり、農業者の高齢化、農業就業人口の減少などによる労働力の低下や、農村地域の活力の低下にともなう耕作放棄地の増大が懸念される。</p> <p>2 水田農業の現状</p> <p>地域は、県内有数の水稻栽培地帯で、これまで稻作と転作が一体となった大規模な水田営農を展開してきた。</p> <p>袋井地域は、昭和42年度から30a区画を基本とした県営ほ場整備事業を実施し、この結果大規模農家の育成にも寄与し、また、用排水を分離することにより、良質米産地づくりを推進してきた。</p> <p>①水稻は、新たな米政策大綱の実施に伴い、作付面積及び収穫量は流動的であり、各品種別の作付面積も同様な傾向がみられ、平成17年水稻の作付面積は1,331haとなっている。</p>																																			

振興計画名/作物名等	現計画の基礎となった振興計画	同左の現在の計画内容	変更内容及びその理由等
3.作物振興及び水田利用の将来方向	<p>今後は消費者の嗜好を反映し、コシヒカリ、キヌヒカリといった良食味品種や健康志向の高まりの中で、需要の増加が見込まれる新型質米など、需要に見合った生産と品質の向上を目指し「売れる米づくり」に努める。</p> <p>②生産調整による麦、大豆、飼料作物は、2年3作(水稻+小麦+大豆)を中心とした営農体系の確立によりのびてきただが、今後は流動的であると予想される。</p> <p>また、近年収穫量の減少及び品質の低下が懸念され、併せて雑草対策の検討も必要である。</p> <p>水田における土地利用型農業を活性化するため、大規模農家の農地利用集積、さらには水田の汎用化を図るための基盤整備を一層推進するとともに、麦、大豆等の本格的生産の定着、拡大を図る。稻作と転作が一体となった生産性の高い水田営農を確立する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・需要に応じた水稻・小麦・大豆等の作付・販売計画の策定</li> <li>・水稻・小麦・大豆等の生産性向上に伴う低コスト、高品質生産の確立</li> <li>・小麦を中心とした作物の団地化、大規模農家の利用集積</li> <li>・地域、生産者間の調整活動を主体に、農業団体が一体となつたす維新体性を構築する</li> </ul> <p>水田作物の振興及び作付計画は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水稻は、消費者の嗜好を反映し、コシヒカリを中心とした良食味品種の作付を推進する。</li> <li>また、食の安心、安全志向の高まりの中で、需要の増加が見込まれる新型質米等への対応は、重要に応じた生産技術を確立する</li> <li>・小麦は、10a当り収量を安定し、水田における作付を定着する。</li> <li>作付品種は、農林61号及びイワイノダイチを主体とするが、実需者要望に応えた品種の選定と課題であるタンパク質含有量の敵正化を図り、生産技術の確立を図る。</li> <li>・大豆の作付目標は平成22年で230haとする。</li> <li>10a当りの収量は240kgを目標とし、水稻+小麦+大豆の2年3作型の栽培体系を進め、水田の高度利用を図る。</li> <li>・その他の振興作物は、稻発酵粗飼料用稻(ホールクロップサイレージ)の作付面積の拡大を図り、粗飼料の生産利用を普及する。</li> </ul>	変更なし	

振興計画名/作物名等	現計画の基礎となった振興計画	同左の現在の計画内容	変更内容及びその理由等																																																															
農業振興地域整備計画 基礎資料 (平成19年6月改訂)  (袋井市)	<p>農業振興地域整備計画基礎資料による生産目標 農業振興地域整備計画基礎資料による作物別の生産目標は以下のとおりである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>作物名</th> <th>現況(H19)</th> <th>目標(H27)</th> </tr> <tr> <th></th> <th>ha</th> <th>ha</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>水稻</td><td>1,792</td><td>1,277</td></tr> <tr><td>小麦</td><td>584</td><td>515</td></tr> <tr><td>かんしょ</td><td>17</td><td>17</td></tr> <tr><td>大豆</td><td>191</td><td>191</td></tr> <tr><td>だいこん</td><td>7</td><td>7</td></tr> <tr><td>ばれいしょ</td><td>19</td><td>12</td></tr> <tr><td>さといも</td><td>3</td><td>3</td></tr> <tr><td>キャベツ</td><td>9</td><td>9</td></tr> <tr><td>レタス</td><td>20</td><td>21</td></tr> <tr><td>ねぎ</td><td>3</td><td>3</td></tr> <tr><td>たまねぎ</td><td>2</td><td>2</td></tr> <tr><td>きゅうり</td><td>7</td><td>6</td></tr> <tr><td>なす</td><td>5</td><td>4</td></tr> <tr><td>トマト</td><td>8</td><td>8</td></tr> <tr><td>さやえんどう</td><td>8</td><td>6</td></tr> <tr><td>いちご</td><td>7</td><td>7</td></tr> <tr><td>温室メロン</td><td>135</td><td>130</td></tr> <tr><td>チングンサイ</td><td>10</td><td>10</td></tr> <tr><td>花き</td><td>1</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>	作物名	現況(H19)	目標(H27)		ha	ha	水稻	1,792	1,277	小麦	584	515	かんしょ	17	17	大豆	191	191	だいこん	7	7	ばれいしょ	19	12	さといも	3	3	キャベツ	9	9	レタス	20	21	ねぎ	3	3	たまねぎ	2	2	きゅうり	7	6	なす	5	4	トマト	8	8	さやえんどう	8	6	いちご	7	7	温室メロン	135	130	チングンサイ	10	10	花き	1	0	変更なし	
作物名	現況(H19)	目標(H27)																																																																
	ha	ha																																																																
水稻	1,792	1,277																																																																
小麦	584	515																																																																
かんしょ	17	17																																																																
大豆	191	191																																																																
だいこん	7	7																																																																
ばれいしょ	19	12																																																																
さといも	3	3																																																																
キャベツ	9	9																																																																
レタス	20	21																																																																
ねぎ	3	3																																																																
たまねぎ	2	2																																																																
きゅうり	7	6																																																																
なす	5	4																																																																
トマト	8	8																																																																
さやえんどう	8	6																																																																
いちご	7	7																																																																
温室メロン	135	130																																																																
チングンサイ	10	10																																																																
花き	1	0																																																																

振興計画名/作物名等	現計画の基礎となった振興計画	同左の現在の計画内容	変更内容及びその理由等
御前崎地域水田農業ビジョン (浜岡町は、平成16年4月に御前崎町と合併し御前崎市に) 1. 農業の特性	御前崎市 地域水田農業ビジョン (策定年度 平成18年度)	本地域は、静岡市と浜松市のほぼ中間の最南端に位置し、西側が浜岡地域で遠州灘海岸に臨んでいる。 農業は、中央平坦地では主に水稻や温室メロン、北部丘陵地帯では茶や野菜、南部砂丘畑地帯では砂地を利用した白ネギ、スイカ、かんしょの露地野菜や施設園芸のいちご、トマトが生産されている。 地域内の農業粗生産額で、茶、いちご、温室メロン、水稻の順くなっているが、各作物とも生産者の高齢化が進んでおり、産地の維持や生産減退が懸念されている。 このため、地域全体でより一層の効率的な土地利用を目指し、投資の軽減、農業規模の拡大やこれに伴う機械器具の有効活用による労働力の省力化等の中で、生産物の安定化、高品質化を目指す。	変更なし
2. 水田農業の現状	地域内の水田面積のうち、ほ場整備事業を含めた基盤整備済み整備率は60%となっている。 平成17年度の水田農業の実績は、基盤整備が完了した水田では水稻が89%、麦及び飼料作物4%、その他野菜7%となっている。 また、未整備地区では比較的条件の整ったところでは水稻が作付されているが、その他は転換畑や不作付地となつていて。 水田農家の多くが兼業農家で、また高齢化の影響もあいまって小さな面積を耕作し、飯米生産が主体となっている。今後は、農地の流動化によるほ場の集積と規模拡大を推進し、水系別、区画別に栽培管理を統一化してコストの軽減を図る。また、緑肥による環境保全型農業の取組みを推進する必要がある。		
3. 作物振興及び水田利用の将来方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほ場整備が実施された区域を中心に耕作の容易な水田は、その多くが利用権設定による担い手が耕作している。また、転換畑でも条件の良い所は茶、イチゴ、露地野菜等に、住宅近隣では家庭菜園、施設園芸に利用されている。</li> <li>・ほ場整備済の水田を中心に水稻作付区域と位置づけ、担い手の水田規模拡大を図るために集積・団地化をはかりる。</li> <li>・水田作付区域の位置付けが出来ない谷地田等については、今後の利用方法について検討を行なう。</li> <li>基幹作物である茶園地への転換については乗用型摘採機の利用を前提に計画し、イチゴ、トマト等の施設園芸については、風向や日照に注意し、露地野菜、イチジク等の永年作物の作付ができるよう検討する。</li> </ul>		

振興計画名/作物名等	現計画の基礎となった振興計画	同左の現在の計画内容	変更内容及びその理由等																																							
農業振興地域整備計画 基礎資料 (平成19年7月改訂)	<p>農業振興地域整備計画基礎資料による生産目標 農業振興地域整備計画基礎資料による作物別の生産目標は以下のとおりである。 (御前崎市)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>作物名</th> <th>現況(H19) ha</th> <th>目標(H27) ha</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>水稻</td><td>307</td><td>266</td></tr> <tr><td>小麦</td><td>5</td><td>5</td></tr> <tr><td>かんしょ</td><td>40</td><td>40</td></tr> <tr><td>大豆</td><td>11</td><td>11</td></tr> <tr><td>だいこん</td><td>53</td><td>60</td></tr> <tr><td>レタス</td><td>7</td><td>11</td></tr> <tr><td>トマト</td><td>5</td><td>6</td></tr> <tr><td>いちご</td><td>38</td><td>53</td></tr> <tr><td>温室メロン</td><td>21</td><td>21</td></tr> <tr><td>メキャベツ</td><td>8</td><td>20</td></tr> <tr><td>花き</td><td>23</td><td>22</td></tr> <tr><td>飼料作物</td><td>10</td><td>39</td></tr> </tbody> </table>	作物名	現況(H19) ha	目標(H27) ha	水稻	307	266	小麦	5	5	かんしょ	40	40	大豆	11	11	だいこん	53	60	レタス	7	11	トマト	5	6	いちご	38	53	温室メロン	21	21	メキャベツ	8	20	花き	23	22	飼料作物	10	39		
作物名	現況(H19) ha	目標(H27) ha																																								
水稻	307	266																																								
小麦	5	5																																								
かんしょ	40	40																																								
大豆	11	11																																								
だいこん	53	60																																								
レタス	7	11																																								
トマト	5	6																																								
いちご	38	53																																								
温室メロン	21	21																																								
メキャベツ	8	20																																								
花き	23	22																																								
飼料作物	10	39																																								

振興計画名/作物名等	現計画の基礎となった振興計画	同左の現在の計画内容	変更内容及びその理由等
菊川地域水田農業ビジョン (小笠町と菊川町は平成17年 新設合併し菊川市に) 1.農業の特性	<p>菊川 地域水田農業ビジョン（策定年度 平成18年度一部改正）</p> <p>1.菊川地域 地域は、県の中西部で静岡市と浜松市のほぼ中央に位置する。北部は山林が多く、東部地帯は牧之原台地よりの丘陵地、南部一帯は平坦地で、町の中央を南北に一級河川菊川が貫流し、冬季でも降雪は稀で温暖な気候に恵まれている。 農業は、北東部地区は全国的にも屈指の茶産地である牧之原台地が、南部地区は平坦地を中心に水田農業が行なわれ、水稻裏作としてレタスが定着している。また、気象条件を活かした温室メロン、イチゴ、バラ、トマトなどの商品価値の高い作物が栽培されている。</p> <p>2. 小笠地域 地域は、県の中西部に位置し中央部から西南部にかけて平坦水田地帯が広がり、東部から北部にかけて牧之原台地の一部となっている。 農業は、平坦地では水稻のほか施設園芸が行なわれ、台地や山間地にかけては茶が作付され、畜産は地域に分散している。 経営的には、土地利用型大規模農家、施設利用型農家、あるいは兼業飯米農家などがあり、共通課題として農業者の高齢化がある。</p>		
2.水田農業の現状	<p>1. 菊川地域 地域は、県内有数の水稻栽培地帯であるが、これまで稻作と転作が一体となり水田営農を展開してきた。 全体的には、小麦、大豆を中心とした土地利用型作物のウエイトは低く、自己保全管理、永年性作物、野菜類の作付が目立っている。 また、水田の保全等を目的とした青刈り稲や調整水田が多いことも地域の特性である。地区は大豆、レタス等が定着しているところがあり、レタス栽培は水稻の裏作として普及・定着している。</p> <p>2.小笠地域 地域の水田は、菊川の流域である嶺田、河東地区に集中している耕作面積別には、1ha以下が全体の93%を占めており、小規模農家の比率が高く、また、飯米農家が多いのが特色である。 水稻の栽培面積は、生産調整の拡大に伴い面積、収穫量とも減少している。作付け品種は、コシヒカリ、キヌヒカリが全体の80%を占めている。今後は、生産者と農業団体が一体となって、需要に応じた生産・販売計画を策定し、良食味品種の作付を推進していく。 転作作物は、麦を中心とした集団栽培によるブロックローテーション方式による団地化と大規模化による土地利用集積型となつていて。麦以外では、イタリアンライグラス、ソルガム等の飼料作物、青刈り稲、さといも、なす、トマト等の野菜類、景観作物となつている</p>		

振興計画名/作物名等	現計画の基礎となった振興計画	同左の現在の計画内容	変更内容及びその理由等																																													
3. 作物振興及び水田利用の将来方向  農業振興地域整備計画基礎資料 (平成19年3月改訂)	<p>1. 菊川地域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水稻は、平成12年以降コシヒカリがキヌヒカリを上回り、平成17年度にはコシヒカリ、キヌヒカリがうるち米全体の85%を占めるようになった。今後は、生産者と農業団体が一体となつて、需に応じた生産・販売計画を策定し、コシヒカリを中心とした作付を推進する。</li> <li>・麦は、作業受託を含め大型稻作農家等が、内田、横地、小笠地域を中心に作付されている。</li> <li>大豆は、その多くが自家消費用の栽培となっていて年々作付面積は減少傾向にある。</li> <li>・レタスは、水田裏作として菊川地区で栽培されている。レタス栽培は茶栽培農家の裏作として作付面積をのばしてきたが、近年は面積が減少している。今後、定植機等省力機械の導入を推進し、作付面積の拡大を図る。</li> </ul> <p>2. 小笠地域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水稻は、需要に見合った作付面積の確保に農業団体及び関係機関が一体となつて努める必要がある。品種構成については、農業者の判断によりキヌヒカリ、コシヒカリといった品種を中心に作付を推進する。</li> <li>・麦は、土地利用型作物として農要地の有効利用を図るための主な作物であり、また、転作営農を図る上でも重要作物として位置づける。大豆は、高品質大豆の安定的な生産を推進する。</li> <li>・その他作物として、転作田を利用して、地産地消を拡大するため、地場産野菜直売所へ出荷する野菜類の作付を推進する。</li> </ul> <p>農業振興地域整備計画基礎資料による生産目標 農業振興地域整備計画基礎資料による作物別の生産目標は以下のとおりである。 (菊川市)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>作物名</th> <th>現況(H19)</th> <th>目標(H27)</th> </tr> <tr> <th></th> <th>ha</th> <th>ha</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>水稻</td> <td>839</td> <td>836</td> </tr> <tr> <td>小麦</td> <td>97</td> <td>115</td> </tr> <tr> <td>かんしょ</td> <td>7</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>大豆</td> <td>15</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>ばれいしょ</td> <td>17</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>レタス</td> <td>55</td> <td>98</td> </tr> <tr> <td>きゅうり</td> <td>5</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>トマト</td> <td>14</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>いちご</td> <td>8</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>ハウスメロン</td> <td>24</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>温室メロン</td> <td>16</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>花き</td> <td>10</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>飼料作物</td> <td>0</td> <td>50</td> </tr> </tbody> </table>	作物名	現況(H19)	目標(H27)		ha	ha	水稻	839	836	小麦	97	115	かんしょ	7	7	大豆	15	25	ばれいしょ	17	17	レタス	55	98	きゅうり	5	6	トマト	14	20	いちご	8	14	ハウスメロン	24	24	温室メロン	16	16	花き	10	16	飼料作物	0	50	変更なし	
作物名	現況(H19)	目標(H27)																																														
	ha	ha																																														
水稻	839	836																																														
小麦	97	115																																														
かんしょ	7	7																																														
大豆	15	25																																														
ばれいしょ	17	17																																														
レタス	55	98																																														
きゅうり	5	6																																														
トマト	14	20																																														
いちご	8	14																																														
ハウスメロン	24	24																																														
温室メロン	16	16																																														
花き	10	16																																														
飼料作物	0	50																																														

振興計画名/作物名等	現計画の基礎となった振興計画	同左の現在の計画内容	変更内容及びその理由等
牧之原市榛原地区 水田農業ビジョン (榛原町は相良町と平成17年10月新設合併し牧之原市に)	牧之原市榛原地区 水田農業ビジョン (策定年度 平成18年度変更)  地域は、県の中西部、駿河湾の西に位置し、北西部の牧之原台地と大井川河口から御前崎へ続く海岸沿いに発達している砂州に囲まれている。 農業は、基幹作物である茶を中心に水稻、ミカン、施設野菜、花卉、レタス及び畜産など多様に営まれている。 近年、農産物の輸入自由化をはじめ、米やミカンの構造的な生産過剰や消費減退が農家経営を圧迫しており、基幹農業従事者の減少と高齢化により耕作放棄地や荒廃農地が増加の傾向にある。 地区的農業は、茶が中心で農産物粗生産額に占める割合は約4割であり、経営体は茶+水田及び茶+ミカンの複合経営が主体となつている。	変更なし	
1.農業の特性			
2.水田農業の現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水稻作付面積は微増だが、単収が減ったことにより収穫量は減少し、平成17年の水稻作付面積321ha、収穫量1,700tである。</li> <li>・作付品種は、消費者の嗜好を反映し、キヌヒカリ、コシヒカリを中心として、ひとめぼれといった良食味品種の作付が上位を占めている。</li> <li>・全国・県を代表する秋冬レタスの産地であり、その前作となる水稻の作付もレタスに合わせた早生品種の作付が中心である。</li> <li>・平成17年の地区水田利用状況は、面積において前年度と比較すると水稻作付面積、産地づくり奨励作物全般、一般作物、休耕地が増加しているが、青刈り、加工用米が減少している。</li> <li>・産地作り奨励作物は、大豆、スイートコーン、コスモス、そば、茶等である。</li> </ul>		
3.作物振興及び水田利用の将来方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・米の生産量の大半を自家消費する地域ではあるが、今後は良食味品種の栽培面積拡大のため農協と連携を図り推進する。</li> <li>・振興作物である大豆、スイートコーン、そばの栽培を推進するとともに良質なものの生産に努め、農協等と連携を図り販路を拡大する。</li> <li>・水田の有効利用、農地の環境美化からコスモスの景観形成作物を振興する。</li> <li>・基幹作物である茶の生産を促進するため、茶園への転換を推進し、茶園面積の拡大を図る。</li> </ul>		

振興計画名/作物名等	現計画の基礎となった振興計画	同左の現在の計画内容	変更内容及びその理由等																														
農業振興地域整備計画 基礎資料 (平成19年9月改訂)	<p>農業振興地域整備計画基礎資料による生産目標 農業振興地域整備計画基礎資料による作物別の生産目標は以下のとおりである。 (牧之原市)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>作物名</th> <th>現況(H19) ha</th> <th>目標(H27) ha</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>水稻</td> <td>569</td> <td>605</td> </tr> <tr> <td>だいこん</td> <td>58</td> <td>62</td> </tr> <tr> <td>ばれいしょ</td> <td>55</td> <td>42</td> </tr> <tr> <td>やまのいも</td> <td>0</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>レタス</td> <td>155</td> <td>225</td> </tr> <tr> <td>トマト</td> <td>5</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>いちご</td> <td>15</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>温室メロン</td> <td>6</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>花き</td> <td>8</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table>	作物名	現況(H19) ha	目標(H27) ha	水稻	569	605	だいこん	58	62	ばれいしょ	55	42	やまのいも	0	3	レタス	155	225	トマト	5	6	いちご	15	16	温室メロン	6	6	花き	8	8	変更なし	
作物名	現況(H19) ha	目標(H27) ha																															
水稻	569	605																															
だいこん	58	62																															
ばれいしょ	55	42																															
やまのいも	0	3																															
レタス	155	225																															
トマト	5	6																															
いちご	15	16																															
温室メロン	6	6																															
花き	8	8																															

振興計画名/作物名等	現計画の基礎となった振興計画	同左の現在の計画内容	変更内容及びその理由等
吉田町地域水田農業ビジョン	吉田町 地域水田農業ビジョン (策定年度 平成18年度変更)		
1. 農業の特性	<p>地域は、県の中南部に位置し、農用地は吉田田んぼを中心に水田が南北に断続している。また、牧之原台地の東端丘陵地帯は小規模ながら茶園もある。</p> <p>農業の経営規模は全般に零細であるが、温暖で水資源にも恵まれた立地条件にある。主要作物として水稻、レタス、茶の割合が7割以上で、経営体も水稻+レタス+茶の複合経営がほとんどである。</p> <p>特に、レタスは指定産地として定着しており、一部農家では温室メロン、花卉等の施設園芸も導入されている。また、農業生産額の構成比を静岡県と比較するとレタスが高い比率となっている。</p>	変更なし	
2. 水田農業の現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成17年までの3ヵ年の推移を10a当たりの収穫量でみると、15年が483kg、16年が543kg、17年が526kgといずれも県平均を上回る収穫量となっている。</li> <li>・平成16年の町の販売農家数は254戸で、全世帯8,635戸の2.9%でそのうち専業農家が48戸である。</li> <li>地域の水稻栽培農家は、飯米や縁故米及び水田維持を目的として作付を行なう農業者が大半を占め、50a以下の経営耕地面積の農家が全体の72%を占めている。</li> </ul>		
3. 作物振興及び水田利用の将来方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水稻は、一部農協への出荷もあるが、ほとんどは飯米や縁故米として消費している。後作にレタスを合わせたキヌヒカリなどの早生品種が主流であるが、今後は良食味品種の栽培面積の早生品種が主流であるが、今後は良食味品種の栽培面積の早生品種が主流であるが、今後は良食味品種の栽培面積の拡大を図り、減農薬栽培など安全・安心の米づくりを推進し、水田農業経営の安定・発展に向けた取組みを強化する。</li> <li>・大豆の作付面積は、ほぼ横ばいであるが、農協女性部の「手作り味噌」として朝市等で販売している。地産地消、安全安心による販路を拡大し、地元で生産した大豆の利用を進める。</li> <li>・スイートコーンは、地域の転作主要作物である。栽培面積も増加しており一部の農協出荷や契約販売、直売となっている。</li> <li>現在は、水稻+レタスの作付形態が主体となっているが、農協による栽培講習会と栽培暦の配賦によりスイートコーン+レタスの作付形態を推進し、生産調整と水田の生産所得向上を図る。</li> </ul>		

振興計画名/作物名等	現計画の基礎となった振興計画	同左の現在の計画内容	変更内容及びその理由等																		
農業振興地域整備計画 基礎資料 (平成19年9月改訂)	農業振興地域整備計画基礎資料による生産目標 農業振興地域整備計画基礎資料による作物別の生産目標は以下のとおりである。 (吉田町) <table border="1" data-bbox="422 365 808 524"> <thead> <tr> <th data-bbox="422 365 601 397">作物名</th> <th data-bbox="601 365 759 397">現況(H19)</th> <th data-bbox="759 365 1006 397">目標(H27)</th> </tr> <tr> <th data-bbox="422 397 601 428"></th> <th data-bbox="601 397 759 428">ha</th> <th data-bbox="759 397 1006 428">ha</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="422 428 601 460">水稻</td> <td data-bbox="601 428 759 460">275</td> <td data-bbox="759 428 1006 460">270</td> </tr> <tr> <td data-bbox="422 460 601 492">レタス</td> <td data-bbox="601 460 759 492">135</td> <td data-bbox="759 460 1006 492">200</td> </tr> <tr> <td data-bbox="422 492 601 524">花き</td> <td data-bbox="601 492 759 524">1</td> <td data-bbox="759 492 1006 524">1</td> </tr> <tr> <td data-bbox="422 524 601 555">飼料作物</td> <td data-bbox="601 524 759 555">0</td> <td data-bbox="759 524 1006 555">36</td> </tr> </tbody> </table>	作物名	現況(H19)	目標(H27)		ha	ha	水稻	275	270	レタス	135	200	花き	1	1	飼料作物	0	36	変更なし	
作物名	現況(H19)	目標(H27)																			
	ha	ha																			
水稻	275	270																			
レタス	135	200																			
花き	1	1																			
飼料作物	0	36																			

(3) 農産物等の動向

(ア) 作付面積

作物名	年 度	現計画の直近 5ヶ年の平均	H14	H15	H16	H17	H18	変化の状況及びその要因
		面積(ha)	指 数	面積(ha)	指 数	面積(ha)	指 数	
水稻	面積(ha)	6,739	100	6,811	101	6,780	101	6,714
	指 数	100	100	101	101	100	100	99
小麦	面積(ha)	611	100	437	72	691	113	695
	指 数	100	100	100	72	100	113	114
大豆	面積(ha)	227	100	330	146	241	106	211
	指 数	100	100	100	146	100	106	93
かんしょ	面積(ha)	149	100	135	90	131	88	148
	指 数	100	100	100	90	100	88	99
ばれいしょ	面積(ha)	166	100	168	101	160	96	158
	指 数	100	100	100	101	100	96	95
トマト	面積(ha)	91	100	85	94	81	89	82
	指 数	100	100	100	94	100	89	91
きゅうり	面積(ha)	45	100	46	102	45	100	43
	指 数	100	100	100	102	100	100	95
いちご	面積(ha)	134	100	145	108	130	97	126
	指 数	100	100	100	108	100	97	94
レタス	面積(ha)	528	100	535	101	531	101	503
	指 数	100	100	100	101	100	101	95
だいこん	面積(ha)	122	100	82	67	79	65	122
	指 数	100	100	100	67	100	65	100
キャベツ	面積(ha)	56	100	58	104	53	95	54
	指 数	100	100	100	104	100	95	96
さといも	面積(ha)	105	100	102	97	105	100	104
	指 数	100	100	100	97	100	100	99
								109
								107
								102

作 物 名	年 度	現計画の直近 5ヶ年の平均						変化の状況及びその要因
			H14	H15	H16	H17	H18	
にんじん	面積(ha)	74	73	69	71	78	78	安定した作付面積を維持している。
	指 数	100	99	93	96	106	106	
温室メロン	面積(ha)	195	174	168	171	217	245	安定した作付面積を維持している。
	指 数	100	89	86	88	111	126	
ハウスメロン	面積(ha)	257	246	239	241	288	273	安定した作付面積を維持している。
	指 数	100	96	93	94	112	106	
たまねぎ	面積(ha)	31	25	25	33	35	36	安定した作付面積を維持している。
	指 数	100	81	81	107	114	117	
ソルゴー	面積(ha)	44	48	49	39	42	41	近年減少しているものの、ほぼ安定して推移している。
	指 数	100	110	112	89	96	94	
ねぎ	面積(ha)	53	49	48	55	58	56	安定した作付面積を維持している。
	指 数	100	92	90	103	109	105	
きく	面積(ha)	1,057	1,283	1,192	668	1,108	1,035	安定した作付面積を維持している。
	指 数	100	121	113	63	105	98	
トルコギキョウ	面積(ha)	719	560	579	824	840	794	安定した作付面積を維持している。
	指 数	100	78	80	115	117	110	

出 典 ) H14~H18年度静岡県農林水産統計年報

※「水稻」「小麦」「大豆」:合併後の袋井市は旧袋井市のみ、牧之原市は旧榛原町のみ、御前崎市は旧浜岡町のみの平均値である。

※「他の品目」:合併後の袋井市は旧浅羽町を含む、牧之原市は旧相良町を含む、御前崎市は旧御前崎町を含む平均値である。

## (イ) 農産物価格等

作物名		年 度	現計画の直近 5ヶ年の平均						変化の状況及びその要因
				H14	H15	H16	H17	H18	
水稻	価格(円/kg)	259	251	313	274	224	235	235	近年、大きな価格変動はない。
	指 数	100	97	121	106	86	90	90	
小麦	価格(円/kg)	132	150	132	125	126	126	126	価格は微減しているものの、安定的に推移している。
	指 数	100	114	100	95	96	96	96	
大豆	価格(円/kg)	242	222	232	273	246	237	237	近年、大きな価格変動はない。
	指 数	100	92	96	113	102	98	98	
かんしょ	価格(円/kg)	137	177	130	91	128	158	158	収量の増減により価格は変動している。
	指 数	100	129	95	66	93	116	116	
ばれいしょ	価格(円/kg)	158	140	169	147	179	157	157	収量の増減により価格は変動している。
	指 数	100	89	107	93	113	99	99	
トマト	価格(円/kg)	334	334	372	316	316	333	333	近年、大きな価格変動はない。
	指 数	100	100	111	95	95	99	99	
きゅうり	価格(円/kg)	229	242	205	225	226	247	247	近年、大きな価格変動はない。
	指 数	100	106	90	98	99	108	108	
いちご	価格(円/kg)	892	925	904	881	896	855	855	近年、大きな価格変動はない。
	指 数	100	104	101	99	100	96	96	
レタス	価格(円/kg)	218	231	204	262	205	187	187	収量の増減により価格は変動している。
	指 数	100	106	94	120	94	86	86	
だいこん	価格(円/kg)	75	73	60	75	82	83	83	上昇傾向にある。
	指 数	100	98	81	101	109	112	112	
キャベツ	価格(円/kg)	76	68	59	103	81	68	68	収量の増減により価格は変動している。
	指 数	100	90	78	136	106	90	90	
さといも	価格(円/kg)	606	550	548	638	617	679	679	上昇傾向にある。
	指 数	100	91	90	105	102	112	112	
にんじん	価格(円/kg)	147	97	203	132	131	174	174	収量の増減により価格は変動している。
	指 数	100	66	138	89	89	118	118	

年 度		現計画の直近 5ヶ年の平均	H14	H15	H16	H17	H18	変化の状況及びその要因
作物名								
温室メロン	価格(円/kg)	957	961	942	949	935	996	近年、大きな価格変動はない。
	指 数	100	100	98	99	98	104	
ハウスメロン	価格(円/kg)	278	282	264	269	261	313	近年、大きな価格変動はない。
	指 数	100	102	95	97	94	113	
たまねぎ	価格(円/kg)	148	147	136	149	162	146	近年、大きな価格変動はない。
	指 数	100	100	92	101	109	99	
ソルゴー	価格(円/kg)	91	89	90	92	91	91	近年、大きな価格変動はない。
	指 数	100	98	99	101	101	101	
ねぎ	価格(円/kg)	294	354	293	245	296	281	収量の増減により価格は変動している。
	指 数	100	120	100	83	101	96	
きく	価格(円/kg)	51	45	45	50	46	68	収量の増減により価格は変動している。
	指 数	100	89	89	98	91	133	
トルコギキョウ	価格(円/kg)	125	121	122	127	119	137	近年、大きな価格変動はない。
	指 数	100	96	98	101	95	110	
労賃単価	基幹	単価(円/hr)	1,691	1,657	1,737	1,712	1,807	1,544
		指 数	100	98	103	101	107	91
	補助	単価(円/hr)	1,619	1,657	1,678	1,634	1,584	1,544
		指 数	100	102	104	101	98	

出 典 ) 作物単価:H14~H18年度 農業物価統計(静岡県)

労賃単価:H14~H18年度 経済効果測定参考資料(静岡県)

## (ウ) 単位当たり収量

作物名	年 度	現計画の直近 5ヶ年の平均						変化の状況及びその要因
			H14	H15	H16	H17	H18	
水稻	単収(kg/10a)	516	523	489	538	522	508	単収はほぼ横ばいで推移している。
	指 数	100	101	95	104	101	98	
小麦	単収(ha)	234	284	268	172	240	205	気象影響による変動は見られるが、近年はほぼ横ばいで推移している。
	指 数	100	121	115	74	103	88	
大豆	単収(kg/10a)	105	112	101	84	119	110	気象影響による変動は見られるが、近年はほぼ横ばいで推移している。
	指 数	100	106	96	80	113	105	
かんしょ	単収(kg/10a)	1,957	1,971	1,901	1,880	1,977	2,058	単収はほぼ横ばいで推移している。
	指 数	100	101	97	96	101	105	
ばれいしょ	単収(kg/10a)	1,401	1,376	1,424	1,436		1,366	単収はほぼ横ばいで推移している。
	指 数	100	98	102	103		98	
トマト	単収(kg/10a)	7,433	7,483	7,254	7,468	7,280	7,680	単収はほぼ横ばいで推移している。
	指 数	100	101	98	100	98	103	
きゅうり	単収(kg/10a)	3,072	3,188	3,086	3,000	3,043	3,043	単収はほぼ横ばいで推移している。
	指 数	100	104	100	98	99	99	
いちご	単収(kg/10a)	3,661	3,690	3,590	3,684	3,789	3,553	単収はほぼ横ばいで推移している。
	指 数	100	101	98	101	103	97	
レタス	単収(kg/10a)	2,462	2,635	2,333	2,251	2,460	2,629	微増傾向にある。
	指 数	100	107	95	91	100	107	
だいこん	単収(kg/10a)	5,325	5,546	5,106	5,002	5,550	5,420	微増傾向にある。
	指 数	100	104	96	94	104	102	
キャベツ	単収(kg/10a)	2,810	2,664	2,956	2,678	2,689	3,063	微増傾向にある。
	指 数	100	95	105	95	96	109	
さといも	単収(kg/10a)	1,412	1,430	1,378	1,408	1,396	1,446	微増傾向にある。
	指 数	100	101	98	100	99	102	
にんじん	単収(kg/10a)	3,456	3,616	3,346	3,530	3,383	3,404	単収はほぼ横ばいで推移している。
	指 数	100	105	97	102	98	99	

作 物 名	年 度	現計画の直近 5ヶ年の平均						変化の状況及びその要因
			H14	H15	H16	H17	H18	
温室メロン	単収(kg/10a)	2,992	2,778	2,998	3,074	3,148	2,964	単収はほぼ横ばいで推移している。
	指 数	100	93	100	103	105	99	
ハウスメロン	単収(kg/10a)	2,726	2,535	2,619	2,762	2,867	2,847	微増傾向にある。
	指 数	100	93	96	101	105	104	
たまねぎ	単収(kg/10a)	2,696	2,640	2,584	2,873	2,706	2,675	単収はほぼ横ばいで推移している。
	指 数	100	98	96	107	100	99	
ソルゴー	単収(kg/10a)	6,067	6,177	5,939	5,997	6,183	6,039	単収はほぼ横ばいで推移している。
	指 数	100	102	98	99	102	100	
ねぎ	単収(kg/10a)	2,349	2,333	2,267	2,150	2,233	2,760	微増傾向にある。
	指 数	100	99	97	92	95	118	
きく	単収(kg/10a)	35	34	35	35	33	36	単収はほぼ横ばいで推移している。
	指 数	100	98	101	101	95	104	
トルコギキョウ	単収(kg/10a)	36	37	34	35	35	38	微増傾向にある。
	指 数	100	103	95	98	98	106	

出 典) H14～H18年度静岡県農林水産統計年報

※「水稻」「小麦」「大豆」:合併後の袋井市は旧袋井市のみ、牧之原市は旧榛原町のみ、御前崎市は旧浜岡町のみの平均値である。

※「その他の品目」:合併後の袋井市は旧浅羽町を含む、牧之原市は旧相良町を含む、御前崎市は旧御前崎町を含む平均値である。

# 事業概要図

